

Golden Days Abroad *Golden Days Abroad* *in Derbyshire*

～ 姉妹都市 英国ダービーシャーを訪ねて ～

第6回ダービーシャー高校生派遣 帰国報告書

2023. 3



目 次

■ はしがき	1p
■ ダービーシャー派遣学生・引率教諭・受入家庭名簿	2p - 3p
■ 派遣日程	4p
■ 滞在中の当番日記	5p - 14p
■ ホストファミリー紹介・派遣を終えて	15p - 57p
■ 英語感想文 (Reflections on experiences in Derbyshire, written by each student in English)	58p - 67p
■ ダービーシャー高校生派遣事業資料	68p - 70p

は し が き

豊田市長 太田 稔彦

豊田市と英国ダービーシャー県・ダービー特別市・南ダービーシャー市は、1989年にトヨタ自動車株式会社の現地法人が南ダービーシャー市バーナストーン地区に設立されたことがきっかけで交流を開始し、1998年11月に姉妹都市提携を結びました。以来、市民を主体とした様々な交流の歴史を重ね、相互理解と友情を育んでまいりました。

ダービーシャー高校生派遣事業は、バートン&サウスダービーシャーカレッジでの学校生活の体験、語学研修、現地学生との交流、ホームステイ等のさまざまなプログラムを通して、豊田市と同校の友好と相互理解を深め、国際感覚と知識豊かな人材を育てることを目指し、2014年度に開始しました。

2018年度以降、新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延により派遣を中止せざるを得ない時期が続きましたが、その間もオンラインでの交流を実施するなど、相互の繋がりを育んできました。

4年ぶりとなった2022年度の派遣事業では、市内の高校及び高等専門学校に通う16名の生徒が約1週間の派遣を無事に終え、現地で見聞を広めてきたことや現地での異文化体験等を本報告書にまとめました。少しでも多くの市民の皆様にご覧いただき、ダービーシャーの魅力や、姉妹都市ならではの交流事業の意義を感じ取っていただければ幸いです。

2023年度には、ダービーシャーと豊田市は姉妹都市提携25周年を迎え、さまざまな記念事業が行われます。この高校生派遣事業をはじめ、ダービーシャーとの交流が、今後、ますます盛んになり、さらに発展していくことを祈念しています。

また、2023年度はWRC世界ラリー選手権が本市で開催されます。海外から多くの来訪者が見込まれる中、都市の国際化の進展には、市の将来を担う若い世代の皆様の国際的な感覚と行動力が不可欠です。今回、派遣事業に参加した皆様が、それぞれの立場で豊田市とダービーシャーの架け橋になっていただくことを期待しています。

おわりに、今回の高校生派遣事業にご理解とご協力をいただきましたご家族、学校関係者の方々をはじめ、派遣団に貴重な機会と経験を与えてくださったバートン&サウスダービーシャーカレッジの事務局、ホストファミリー、ダービーシャーの皆様にご心からお礼を申し上げます。

派遣生徒・受入家庭名簿 (全16名 男:6名、女:10名)

氏名	学校・学年	受入家庭
派遣生徒 内藤 万結 Mayu Naito	 豊田工業高等専門学校 2年	The Garlick Family
派遣生徒 鈴木 千咲 Chisa Suzuki	 豊田西高等学校 2年	The Washbrook Family
派遣生徒 太田 衣咲 Isaki Ota	 豊田東高等学校 2年	The Phillips Family
派遣生徒 小西 礼真 Reima Konishi	 衣台高等学校 1年	The Tanner Family
派遣生徒 川原 菜緒 Nao Kawahara	 猿投農林高等学校 2年	The Phillips Family
派遣生徒 佐久本 刀也 Toya Sakumoto	 豊田工科高等学校 2年	The Allen Family
派遣生徒 関原 優心 Yushin Sekihara	 足助高等学校 2年	The Allen Family
派遣生徒 伊藤 佑華 Yuka Ito	 豊田北高等学校 2年	The Kinnard Family
派遣生徒 杉浦 美空 Sora Sugiura	 豊田北高等学校 2年	The French Family

派遣生徒・受入家庭名簿

氏 名	学校・学年	受 入 家 庭
派遣生徒 大河内 和 Nagomi Okochi	 豊田南高等学校 2年	The Travis Family
派遣生徒 石井 愛美 Manami Ishii	 豊田高等学校 2年	The French Family
派遣生徒 上田 悠護 Yugo Ueda	 豊田高等学校 2年	The Appleton Family
派遣生徒 山内 舞桜 Mao Yamauchi	 豊野高等学校 1年	The Travis Family
派遣生徒 松本 和奏 Wakana Matsumoto	 杜若高等学校 2年	The Washbrook Family
派遣学生 富岡 歩夢 Ayumu Tomioka	 杜若高等学校 2年	The Walton Family
派遣学生 下川 瑛斗 Akito Shimokawa	 豊田大谷高等学校 2年	The Walton Family

引率教員・受入家庭名簿

氏 名	勤務先	受 入 家 庭
引率教員 鷺見 昂汰 Kota Washimi	 豊田南高等学校	The Appleton Family
引率教員 田中 佑委 Yui Tanaka	 杜若高等学校	The Cutler Family

派遣日程

月 日	時 間	活 動 内 容
3月18日(土)	7:13 11:30 18:00 19:55 21:00 22:00 0:30	JR名古屋駅発(新幹線)、品川にて京急乗り換え 羽田空港発(ルフトハンザ航空715便) ミュンヘン空港 着 ミュンヘン空港 発(ルフトハンザ航空第2484便) ヒースロー空港 着 ヒースロー空港 発(バス) BSDC着、ホストファミリー宅へ
3月19日(日)	終日	ホストファミリーと過ごす
3月20日(月)	終日	オリエンテーション、英語入門講座、ドーン・ウォード最高経営責任者兼校長へ市長・議長からの付託メッセージ・記念品を贈呈
3月21日(火)	終日	イギリス料理(アフタヌーンティー)、テーブルセッティング体験、日本料理・文化紹介、茶道に関するプレゼンテーション
3月22日(水)	終日	英国トヨタ自動車訪問、Derby Silk Mill Museum 見学
3月23日(木)	終日	カルチャーショー準備、カルチャーショー本番
3月24日(金)	終日	BSDC発、ロンドン視察(バッキンガム宮殿、国会議事堂、ビッグ・ベン、セント・パンクラス駅、コヴェント・ガーデン等)、ロンドン泊
3月25日(土)	7:30 10:00 12:30 14:30	ヒースロー空港 着 ヒースロー空港 発(ルフトハンザ航空901便) フランクフルト空港 着 フランクフルト空港 発(ルフトハンザ航空716便)
3月26日(日)	11:30 13:30 16:01	羽田空港 着 羽田空港 発(京急)、品川にて新幹線乗り換え JR名古屋駅 着、解散

研修等の日程

令和4年	7月14日(木)	派遣生徒募集・選考
	～9月20日(火)	
	10月31日(月)	派遣生徒決定
	12月10日(土)	派遣ガイダンス(派遣日程・渡航説明等)
	12月17日(土)	第1回事前研修会
令和5年	1月28日(土)	第2回事前研修会
	2月25日(土)	第3回事前研修会
	3月 8日(水)	市長・市議会議長への出発挨拶、表敬訪問
	3月29日(水)	副市長・市議会議長への帰国報告、表敬訪問

滞在中の当番日記

■滞在中の当番日記

3月18日(土)

内藤 万結・鈴木 千咲

みんな重いトランクを抱えて、朝早くに名古屋駅の銀時計に集まりました。そこで集合写真を撮って、新幹線と電車を使って羽田空港まで行きました。一人トランクのタイヤが壊れてしまって運ぶのが大変でした。羽田空港に着いて手荷物検査を終え、その後に時間があつたのでみんなで免税店に買い物に行きました。トイレに寄ったときに貴重品が入っている鞆を失くした人もいて、すごく焦りましたが搭乗口に届けられていたのでとても安心しました。羽田空港からミュンヘン空港へのフライトは14時間もかかりかなり体が疲れましたが、イギリスに行けるんだというワクワク感がずっとあつたので、精神的には疲れませんでした。機内食も美味しくいただいて、充実した時間を過ごせました。

長いフライトが終わって、ミュンヘン空港に降り立ちました。手荷物検査のあとすぐにヒースロー空港行きの飛行機に乗りました。着陸態勢に入った時、ロンドンの綺麗な夜景に目を奪われました。空港に着いて BSDC のスタッフの Katie と対面し、バスに乗りました。バスの中では長旅の疲れもあってみんな爆睡。すごく静かな空間でした。BSDC に着いてホストファザーの Jim、マザーの Louise と車で家に向かいました。車の中ではどれくらいのフライトだったのか、翌日の祝日の説明などいろいろなことを話しました。家に着いて、好きな色を聞かれ、その色に合った部屋に案内されました。すごくかわいいお部屋で私はすぐに気に入りました。その後、whatsapp を交換し、シャワーを浴びてからベッドに入りました。これから始まる1週間がとっても楽しみでなかなか寝つけませんでした。



3月19日(日)

太田 衣咲・小西 礼真

今日は1日ホストファミリーと過ごす日でした。ホストマザーとホストファザー、その娘さんと孫と一緒に The Deer Park という所に連れて行ってもらいました。この日

は Mother's Day だったので、娘さんがホストマザーにお手紙を渡していました。The Deer Park までの行き道は広い牧草地に羊が放牧されていて、日本ではなかなか見ることのできない様子を見ることが出来ました。The Deer Park では、まず森の中を散歩しました。孫の Archie は 1 歳になったばかりで夜中の雨でぬかるんだ土の上を歩くのは大変で、Archie と手を繋いで歩きましたがすぐに座ってしまっていて可愛かったです。

その後は The Deer Park のカフェに行きました。ケーキが美味しいよとホストマザーが教えてくれたので私はチョコレートケーキとカプチーノを頼みました。1 切れずつ食べた Flap jack というイギリスの伝統的なお菓子も美味しかったです。食べ終わったあとはカフェの横に併設されているギフトショップへ行きました。私は可愛いコースターとチョコレート、牛の絵柄のクッキーを買いました。ホストマザーがカードの使い方を確認してくれて、この時が初めてのイギリスでの買い物でした。お店の外には馬車があって、乗せてもらい写真も撮ってもらいました。

夜ご飯までの時間は Archie と遊んだりアニメを観たりしました。英語で字幕もないアニメを観るのは初めてだったので、とても集中して観ていましたが面白かったです。夜ご飯はサンデーローストやカリフラワーチーズ、マッシュポテトなどのイギリス料理をホストマザーが作ってくれました。どれもとても美味しかったです。



3月20日(月)

川原 菜緒・佐久本 刀也

3日目は、英語講座をしました。英語講座の内容は、好きな物の様々な表現の仕方や食べ物や味の表現について学びました。同じ意味でも言い方や単語の違いも学びました。アフタヌーンティーのルールなども教えてくれました。午前と午後2時間ずつ授業を受けました。その授業では、バディになってくれた学生も数人いました。バディは分からないことを聞いたら、私たちに分かるように丁寧に教えてくれました。また、

バディは日本の文化に興味がある人が来てくれているので、たくさん日本のことを聞いてくれてとても嬉しかったです。

バディと一緒にランチもしました。出身地や普段どんな勉強をしているのかなどを聞きました。また、バディが持っていたお菓子を食べてみる？と聞いてくれたりしてほんとに学校に通っていると実感しました。時間があつたので学校を案内してくれました。広すぎて迷子になりそうだなと感じました。

それでも時間があつたので、学校を出て近くのモールみたいな所に行きました。そこで気に入ったキーホルダーがあり、買おうとしたら一緒にいたバディが買ってくれました。一生の宝物になりました。その後授業を受けて、大学の先生がバス停の場所を教えてください、放課後もバディとショッピングをしてカフェに行きました。全て回ることが出来なかったのでオススメの店の名前だけ教えてもらいました。とても楽しかったです。

帰りはバスのちょうどいい時間がなかったので歩いて帰りました。少し遠かったですが、イギリスの街並みを見ることができたので良かったです。ホストファミリーのお家に着いたら今日どうだった？と聞かれました。ご飯を食べながら、イギリスの事や家族の話をしてくれました。ゆっくり話してくれたので分かりやすかったです。必ずご飯の後にコーヒーを淹れてくれます。飲みながら、今日した事を自分達から話さないといけないので、時間はかかってしまいましたがちゃんと伝えられました。イギリスではホストファミリーのお家が一番落ち着く場所になっていました。(川原)



3日目は、英語講座を行いました。英語講座では、日常でよく使う様々な英語表現の仕方について学びました。日本で習う英語表現とは違って現地の人たちが使っている表現の仕方を知ることができました。また、食べ物の食感を英語で表現もしました。

授業が終わり、BSDCの生徒たちと一緒にランチを食べました。学校の学食でサンドイッチとミートボールを選びました。そこでも少し会話をすることができました。午後

からも授業を受けて、その後校内の案内をしてもらいました。学校はとても広くてきれいでした。

学校が終わった後は、近くのショッピングモールに友達と行き、お土産を買ったり、お菓子を買ったりしました。その後ホストファミリーの家に帰ることにしました。みんなまで話して歩きたい気分だったので家まで歩いて帰りました。帰ると、ホストマザーに何を買ってきたのと聞かれ、買ったものを見せながら説明しました。それから、みんなまで夜ご飯を食べました。今日は少し辛いパスタを食べました。食べ終わった後、ホストファミリーに最寄りのバス停の場所を教えてくださいました。夜の道を歩くのもまた楽しかったです。帰ってホストファミリーと日本のアニメを見ました。英語で見るアニメはとても新鮮でした。その後はお風呂に入り寝ました。(佐久本)



3月21日(火)

関原 優心・伊藤 佑華

今日はアフタヌーンティー体験をしました。ドリンクを作ったり、テーブルの上に置くためのナプキンを作ったり、テーブルセッティングする班と、紅茶と一緒に食べるためのケーキやサンドイッチを作る班に分かれ、前半後半で交代するようにして BSDC の生徒さんに教えてもらいながら作りました。

僕はサンドイッチを作る班に入り、サンドイッチの具材を切り終わって担当の人が帰ってくるのを待っていると、「大丈夫？」と担当じゃない生徒さんが声をかけてくれま

した。担当の人待っている時間、僕は不安だったので声をかけてくれてとても嬉しかったです。

その後には BSDC の生徒さんにテーブルナプキンの作り方を教えてもらいました。その時に生徒さんと一緒に紙ナプキンで折り紙を作って楽しみました。また、カクテルの作り方やカプチーノの作り方も教えてもらい、楽しい時間を過ごせました。(関原)

アフタヌーンティー体験が終わった後、茶道について日本の伝統文化を紹介しました。まず、パワーポイントで大まかに紹介して、その後、私と何人かで抹茶をたてました。その際、抹茶の飲み方やルールを英語で紹介しました。茶道について英語で説明するのは難しかったです。抹茶を淹れた後、何人かのイギリスの方々も抹茶を飲みました。「おいしい」「抹茶が好き」という声が出てとても嬉しかったです。

イギリスの方からはアフタヌーンティーを教えてもらい、私たちは茶道を教える。私たちだけがイギリスの文化を紹介され楽しむだけでなく、イギリスの方にも日本の文化を楽しんでもらうことができました。これは9日間の中でも特に大きな思い出です。異文化交流はとても嬉しかったです。ますますイギリスが好きになりました。(伊藤)



3月22日(水)

杉浦 美空・大河内 和

今日、私たちは南ダービーシャー市にあるトヨタ自動車の工場見学と、シルクミルミュージアムに行きました。学校からタクシーでトヨタ自動車の工場まで向かいました。初めに、トヨタについての説明を英語で聞きました。分かりやすい英語で説明してくれたおかげで、とても分かりやすかったです。

次に、私たちが事前に考えてきた「未来の車」について発表しました。海水を使って動く車や風力を使って動く車、太陽光で動く車など意見は様々でした。自分の意見を書いた紙を持ち、全員で写真撮影をした後、工場見学に入りました。そこではイヤフォンが渡され、ローカル職員の方に英語で説明してもらい、日本人職員の方から日本語で説明していただきました。たくさんの工程がある中で私が1番印象に残っているのは、最後の車の点検で体格のいい職員が車のドアに乗りかかってドアが壊れないか点検していたり、シートベルトが機能しているか、汚れている所はないかなどを確認したりする工程です。最後の最後で人の目で確認しているからこそ、安全で素敵な車ができるんだと思いました。

次は、工場を出てシルクミルミュージアムに向かいました。入口には、実物の車が分解された状態で天井からぶら下げられていました。その奥には大きなジェットエンジンも天井からぶら下げられ迫力がありすぎて圧倒されました。もしオブジェを釣りあげている糸が切れたら上から落ちてくるんだよな、と思うと少しドキドキしました。そして、館内を職員の方がガイドしてくれました。見るだけでなく触って体験出来るブースがあり、専門的な説明では分からないことも理解できたので楽しかったです。

3月23日(木)

石井 愛美・上田 悠護

この日はまる一日カルチャーショーのための日でした。午前中はカルチャーショーの準備の時間でしたが、日本にいる間にほとんど準備ができていたため、手伝いに来てくれたバディに折り紙の折り方を教えたり、ベイブレードで遊んだり、バディの名前を漢字で書いたりしました。午後は、カルチャーショーのおもてなしの際に必要なカップとスプーンを買いに行きました。私含め3人で楽しく買い出しできました。帰りは少し寄り道をして、ピーターラビットの本を買って戻りました。そのあと、私はおしることお味噌汁を作る係だったのでキッチンに入りました。35~40人ほど来ると言われていたため大量に作りましたが、すべてインスタントで作ったので簡単に出来ました。

夕方になり、カルチャーショーが始まりました。始めに剣道の型のデモンストレーションがあり、そのあと各ブースに分かれて日本の文化を紹介しました。私は折り紙のブースにいて紙飛行機を担当していましたがあまり人気がなく、途中からぴよんぴよんガエルを教えている事の方が多かったです。うまく折れるとすごく喜んでくれて、教えた側の私たちもうれしくなりました。そのあとは修了式になり修了書をもらいました。ホストファミリーにもおめでとうと言われてとっても嬉しかったです。

最後にみんなで夕食を食べました。ホストファミリーやカルチャーショーに来てくださった方から楽しかったと言われてすごく嬉しかったです。また現地の学生や先生方とたくさん写真を撮ってもらいました。派遣期間の中でも一番思い出に残った最高の一日になりました。

3月24日(金)

山内 舞桜・松本 和奏

今日は待ちに待ったロンドン観光の日でした。ダービーシャーからバスで移動し、そこから歩きでバッキンガム宮殿に向かいました。途中で通りかかった公園は、普段日本では見たことがないほどの大きさと、人懐っこい鳥やリスがおり、非常に自然豊かな場所でした。バッキンガム宮殿に着くと沢山の人が溢れかえっていて、建物や門の様子からは長い歴史を感じました。

そこから激しい雨の中を歩いて、ビッグベンに行きました。教科書の写真で見たことがあったけれど、実際に見てみると比べ物にならないほど迫力があって、驚くほど綺麗でした。

そして近くの駅の中に入り、初めて海外の地下鉄を体験しました。エスカレーターが日本のものに比べて、とても速く動くので初めて乗ったときは驚きました。降りた駅の周辺はお城のような建物がたくさん建てられていました。

その後は友達とお土産を買いに、ピカデリーサーカスという広場に行きました。ここではハリーポッターのお店に行ったり、広場で大道芸を見たりと充実した時間を過ごすことができました。ホテルに着いてからは、同じ部屋の子と沢山話ができ、嬉しかったです。今日は、雨が降ったり止んだりを繰り返していて少し大変でしたが、色々な場所を訪れることができたので、貴重な経験になったと思います。



3月25日(土)・26日(日)

富岡 歩夢・下川 瑛斗

とうとうイギリスを旅立つ日になりました。まだイギリスにいたいと思う気持ちとハードな日程で疲れたので早く日本に帰りたいと言う気持ちが入り混じっていました。飛行機でドイツまで行き、すぐ乗り換えできると思ったら遅延していて、さらに疲労が募りました。ここで少し自由時間を取ってくれたので朝ごはんと昼ごはんを兼ねてパンを買いました。

やっと日本行きの飛行機に乗れて安心したのか、ほとんどの人がぐっすりと寝ていました。ちなみに私もです。私は窓側の席だったので時々窓からの景色を見ると綺麗な虹や夕焼けの綺麗で美しい眺めが疲労を軽くしてくれました。映画は(Lightyear, strange world, Bodies Bodies Bodies)の3本を見て楽しみました。



とうとう日本につき新幹線で名古屋に行き最後にみんなで撮った写真がこの写真です。みんな日本に帰れてホッとしている表情や自信を持っている表情、疲れている表情、いろいろな表情がみえます。



家に帰ると久しぶりに家族と会え、たくさん話しました。この1週間の経験は忘れることができないものであり、自分がいろんな人から支えてもらって生きていて、今生きていることが当たり前ではないことも知れました。この経験ができたことは特別なこと

であり、学校の先生や市の職員、BSDCの人、ホストファミリー、家族にとっても感謝しています。(富岡歩夢)

飛行機は、イギリスから日本まで、乗り換え含めて16時間ほどの長い時間でしたが、慣れない海外での生活で、とても疲れていたため、ほとんどの時間寝る事ができて、快適に過ごす事ができました。初めてのホームステイで緊張する事も多かったですが、ホストファミリーや様々な方のおかげで、すぐに馴染む事ができました。イギリスでの生活は私の異文化理解を深め、コミュニケーション能力や協調性を向上させてくれた忘れられない思い出となりました。大学生になったら、沢山の国にもっと長く留学してみたいです。(下川瑛斗)

ホストファミリー紹介・派遣を終えて

(1) ホストファミリーの紹介

(2) 派遣を終えて

(1) ホストファミリーの紹介

私のホストファミリーはサラールとトミーでした。二人は他のホストファミリーに比べて年齢が若く、留学生を受け入れるのは私が初めてでした。私達がイギリスに着いて、それぞれのホストファミリーに迎えに来てもらうときに初めてサラールに会いました。ハグをして笑顔で迎えてもらったので、とても安心しました。車にはもうトミーが乗っていて、そこでトミーに初めて会いました。写真よりも背が高く驚きましたが、声が優しくギャップを感じました。家に着いて、まず家の中を紹介してもらいました。2階にはシャワーと湯船があって、私が使っている間は二人ともずっと一階にいてくれたので気兼ねなく使うことができました。私は湯船に浸かるのが大好きなので、湯船があったことと自由に使えたことはとても有り難かったです。

次の日は二人の家族に会いに行きました。お互いの家族ととても仲が良く、良い関係だなと思いました。次の日から学校が始まり、学校までの距離が遠かったので毎日タクシーで登下校しました。帰宅したら、ご飯を一緒に作りテレビを観たりしながら、家族や自分のこと、その日の出来事などを話しました。家族の写真を見せたらとても喜んでくれて、会話がはずんで楽しかったです。また、カルチャーショーで私が着物を着付けてあげたらとても喜んでくれました。サラールもトミーもとても親切で明るくてエネルギー満ちた人でした。二人と一緒に過ごせてとても楽しかったです。

(2) 派遣を終えて

私がこの派遣事業に応募した理由は、イギリスの文化に触れたり、現地で暮らす人たちと生活をともにする環境に身を置いたりすることで、異なる価値観や日本とは違う習慣を体験してみたいと思ったからです。海外には家族旅行やサッカーの遠征試合で何度か行ったことはありましたが、現地の人と暮らすことは初めての経験でしたので最初は不安もありましたが、出国前に16人の派遣生みんなで自己紹介をし合ったり、現地のホストファミリー向けに行う日本のカルチャーショーに向けた事前準備をしたりする中で期待の方が大きくなってきました。普段の日常生活では英語を使う機会がないため、YouTubeで日常英会話や英語ニュースを聞いたりして英語力アップに努めるようにしました。現地の学校(BSDC)の授業はそのおかげもあってか、ある程度内容は理解することができましたが、食べ物の食感や自分の絵を人に伝えたりする時の表現方法など、頭では分かっているのに英語で伝えることの難しさや語彙力の乏しさを実感しました。

BSDCにはアフリカや中東など世界中から学生を受け入れており、誰もが自分のやりたいことを一生懸命やっているという雰囲気でした。またインスタグラムを交換した人とその日の放課後にショッピングに行ったり、一緒にランチを食べに行ったりしましたが、BSDCの学生たちは意外にシャイな人が多かったため、自分から積極的に話しかけることが大事だと思いました。話しかけられるのを待つよりも、自分から話しかけて仲

良くなりたい、話したいという気持ちを相手に伝えることの重要性を改めて感じました。

期間中に訪れたイギリスの街は自由でおおらかな雰囲気で溢れている印象的でしたが、日本と違っていたことのひとつは、道路に横断歩道がほとんどなかったことです。また街中の至るところに公共のゴミ箱が設置してあり、地域全体で美化に取り組んでいることにも驚きました。一方で公共のトイレが有料だったり公共交通機関は時間通りでないことが多かったりなど、日本の常識とは違う点があることも気付くことができました。

私はホストファミリーの家と学校まで一番距離があり毎日の登下校はタクシーを使わせて貰っていましたので（タクシーで約 40 分かかりましたが、タクシー代は BSDC 側が負担してくれました）、乗車中はタクシー運転手の方とも英語で話すようにして普段聞けないような話もすることが出来ました。

私のホストファミリーは 30 歳の女性と 27 歳の男性で留学生を受け入れるのが初めての夫婦だったので、最初はお互いに緊張していましたが、たくさん会話をして理解し合うことでとても仲良くなることができ、最後の日にはもっと一緒にいたいと思えるようになりました（ちなみにお土産として持って行った日本のスナック菓子は大好評でした）。ご飯を一緒に作ったりテレビを見たりしながら、家族や自分のこと、その日の出来事などを話しました。家族の写真を見せたらとても喜んでくれて、会話がはずんで楽しかったです（スマホの画像ではなく、実際のプリント写真を持参することをオススメします）。また、カルチャーショーで私が着物を着付けてあげたらとても喜んでくれました。

私はこの派遣事業に参加できたことで非常に良い経験をする事が出来ました。今までの生活から一歩出ただけでもこんなに違うものなのだと驚いたと同時に、日本の英語教育だけでは学ぶことができない本場の雰囲気をあらゆる場面で感じる事が出来ました。新しい仲間や友達に出会うことができたことをとても嬉しく思いますし、高校年代でこのような経験が出来たことは私の将来に必ず良い影響を与えてくれるだろうと思いました。

今回の派遣事業をサポートしていただいた豊田市役所の関係者の方々、引率いただいた鷺見先生・田中先生や平田さん、日本国内での移動を手配いただいた名鉄観光の深田さん、イギリスで私たちの活動を支えていただいた BSDC のケイティとアン、バディとしてサポートしていただいたケイティ・ビビ・アンナ・シイ・アダム・ジェイク・タイタン・カーター・ロアナ・エージェイ、そして一緒に楽しくかけがえのない時間を過ごした 15 人の仲間、なによりも快く私を送り出してくれた家族に感謝でいっぱいです。来年度以降にこの派遣事業に参加する後輩のみなさんのことを心から応援しています。

(1) ホストファミリーの紹介

私のホストファミリーは、父 Jim、母 Louise、息子 Harry と犬の Mabel、Harley です。

Jim は目が合うとウインクしてくれるとても優しい人です。また、紅茶を作ってくれたり朝ごはんを用意してくれたりするすごくイクメンな人でした。Louise は料理がとても上手で、いつも豪華で美味しい食事をたくさん作ってくれました。夕食の際には、どんな 1 日だったかを聞いてくださり、楽しい食事の時間を過ごすことができました。Harry はクールな 15 歳で、最初はあまり話さない人かと思いましたが、部屋でフォートナイトをやっているところを見かけたので「フォートナイト好きなの？」と声をかけるととてもテンションが高くなり楽しそうに話してくれました。日曜日に卓球をした際には勝つまでやりたいという負けず嫌いな一面も発見できました。負けず嫌いだけれど、ダブルスで私が失敗しても it's ok と声をかけてくれて優しいなと思いました。また最終日にはパンケーキを作ってくれて、とてもおいしかったです。

Mabel は元気いっぱいの 1 歳で会うたびにジャンプして喜んでくれて嬉しかったです。Harley は大人びた 5 歳で、テレビを見ている時にくっついてきてくれて嬉しかったです。優しい Washbrook 一家と楽しい 1 週間を過ごせてとても幸せでした。

(2) 派遣を終えて

私は、貴重な機会をいただけたので積極的にいろいろな人と話したいと思い一週間で過ごしました。ですが、到着した翌日は慣れないイギリス英語に大苦戦し、上手くホストファミリーと会話できず悔しい思いをしました。Louise が BSDC までのバスの乗り方を説明してくださいましたが理解しきれないまま説明が終わってしまい、このままでは実際バスに乗るときに困ると思い、Louise にもう一度説明してほしいと頼むと嫌な顔ひとつせず、とても丁寧に地図を見せながら説明してくださり、やっと理解することができました。自分からもう一度尋ねて、きちんと理解できたという経験が私の中では大きな自信となりました。この経験を経てからは、自分の英語力にも少し自信がつき、ホストファミリーと積極的に話せるようになりました。また、自分の思いを伝えることの重要性を再確認しました。

BSDC では、バディと積極的に話をしました。私の話す英語は拙い英語だけれど、バディは伝えたいという私の気持ちを汲み取ってくれて、一生懸命理解してくれました。放課後に一緒にショッピングに行った際には一緒にお菓子を選んでくれました。セルフレジのやり方も教えてくれて、会計が終わった後はグータッチをして友情が深まった気がしました。他にも、ランチ一緒に食べよう、と誘うと授業が忙しいはずなのに快諾してくれて、とても楽しい時間を過ごすことができました。特に Katie とは家が近かったこともあり一緒に登下校したり休憩時間はたくさん話したり、いろいろなことができて

仲良くなれて本当に嬉しかったです。積極的に話しかけたことによって、バディと仲良くなれて、バディ以外の友達もできて嬉しかったし、勇気を出してよかったと思いました。SNSも交換できたので今後も連絡を取って良い関係を築いていきたいです。

この派遣を通して、イギリスらしさも発見することができました。それはフレンドリーさです。私のホストマザーと派遣団の友だちのホストマザーはもともと知り合いではなかったのですが、友だちがバスチケットをバスの運転手からもらうことができず、友だちのホストマザーがバス通学をする生徒のホストマザーと連絡を取りたいという話を友だちから聞いて私のホストマザーの連絡先を教えたところ、ホストマザー同士が仲良くなり、ホームパーティーに招待してもらいました。美味しいご飯を振る舞っていただき、会話を楽しみ、UNOをして、最後は車で家まで送ってもらいました。ホストマザー同士の年齢は全然違うし、電話で話ただけで実際会っていないけれど仲良くなってこんなに良くしてもらえてすごく嬉しかったし、日本にもこういうフレンドリーさが広がるといいなと思いました。また、知り合いではないバディ同士を引き合わせる機会もありました。年齢は違いましたが、お互いリラックスして話しているのが伝わってきて、日本のような先輩後輩の関係も素敵だけど、年齢関係なく気軽に話せるのも素敵だと思いました。ほかには、バスから降りる際にどの乗客も、Thank you や Have a good day と言っていて、バスドライバーも一人一人に受け答えしていたのも素敵だと思いました。日本ではなかなか見られない光景ですが、とてもいい文化だと思うので日本にも浸透するといいなと思います。

また、日本文化の良さを再確認することもできました。今まで、同年代の海外の学生と関わる機会はなかったので、海外の人が日本に興味を持ってくれていると肌で感じる機会もありませんでした。ですが、英語講座の時やカルチャーショー準備の時に、自分の名前の漢字を紹介したら興味を持ってくれたり、折り紙やあやとりを教えたり、オノマトペや他の日本語を教えると、「この英単語は日本語で何ていうの」と聞いてくれたり、おすすめのアニメを聞いてくれたりして日本に興味を持っていることが伝わってきて嬉しかったです。私は普段あまりアニメを観ないので偏ったアニメしか紹介できませんでしたが、私をもっと日本のアニメに詳しくればもっと盛り上がったと思うので、今度海外の方と関わる機会があれば、その時には日本が誇れるものについてもっと詳しくなってたくさん話せるようにしたいと思いました。

イギリスへの派遣が忘れられないくらい楽しいものになったのは、ホストファミリーやバディ、BSDCのスタッフの方々、一緒に行った友だち、同行してくださった平田さんや先生方など様々な方のおかげであり、本当に感謝してもしきれません。この経験を生かして、将来日本とイギリスの架け橋となれるような人材になりたいと思っています。この派遣に参加できて良かったです。ありがとうございました。

(1) ホストファミリーの紹介

私はホストマザーの Elaine、ホストファザーの Hefin にお世話になりました。近くに娘の Michelle と孫の Archie が住んでいて 1 日みんなで過ごした日もありました。Archie は 14 か月の男の子でとても可愛かったです。Elaine は何度もホームステイを受け入れていて Hefin は私達で 2 回目だと言っていました。ダイニングには過去に Elaine が受け入れたたくさんの生徒達の写真が飾ってありました。日本だけでなく色々な国の生徒達がありました。また、出かけた日などに書いてねと言って渡された日記ノートには過去の生徒達を書いた思い出がたくさん残されていました。同じホームステイ先の子とその日の出来事を 2 人で思い出してイラストも描いて完成させるのは楽しかったです。1 日目はとても緊張していて英語を聞き取るのに精一杯だったけど、だんだん慣れてきて上手く会話ができるようになって嬉しかったです。Elaine はいつもとても分かりやすい英語でゆっくり話してくれました。Hefin はジョークをよく言っていてとても面白い方で、食後のみんなでの会話が盛り上がりました。2 人は出身が違うので同じイギリスでもアクセントの違いなどの方言も教えてくれて勉強になりました。日本のお菓子を紹介した時、抹茶味のクッキーなどたくさん持っていきましたが 1 番気に入ってもらえたのがおにぎりせんべいでした。また、一緒にホームステイ先の子と卵焼きときんぴら人参を作って 2 人に食べてもらいました。とても美味しいと言ってくれて嬉しかったです。Elaine の手料理と Hefin の作ってくれるホットチョコレートが大好きです。私達を受け入れてくれた 2 人には感謝でいっぱいです。



(2) 派遣を終えて

私は今回が初めての海外でした。この海外派遣で多くの人と出会い、素敵な経験をさせていただきました。計 16 時間のフライトを経てイギリスに到着した時はこれから始

まるイギリスでの生活への期待と同時に英語での会話やホームステイに不安もありました。

初めてホストファミリーと対面した際、とても緊張していて聞かれたことに答えることくらいしかできませんでした。ですが、ホストファミリーはとても親切でたくさん話しかけてくれたのでだんだん緊張が解けて自分が話したいことを話せるようになり、たくさん笑えるようになりました。そしてホストマザーとホストファザーは私たちに色々なイギリス料理を食べさせてくれました。サンデーロースト、カリフラワーチーズ、クランブル、クランペットなど、ホストマザーは料理上手でホストマザーが作る料理は全部美味しかったです。私が事前にリクエストしていたフィッシュアンドチップスのお店にも連れて行ってきてくれてテイクアウトして食べた日もありました。マッシュピーという食べ物では見たことのない緑色をしているソースをかけて食べることを勧められて食べてみましたが予想以上に美味しくて、チップスの量も日本ではありえない量で驚きました。夕食後にその日おきた出来事を伝えたり日本の食べ物を紹介したりしてホストファミリーと過ごした時間はとても印象に残っている大切な思い出です。



BSDC で出会ったバディや他の生徒ともたくさん会話をしました。英語講座で近くに座っていたバディに自分から話しかけたりランチに誘ったりすると喜んでくれてお互いの国や学校の話がたくさんしました。日本の高校の長期休みがイギリスと比べて短く、課題もあると言うと驚いていました。さらにイギリスにはハーフタームといって各学期毎に1週間の休みがあると教えてくれました。バディは校内を案内してくれたり、授業後に BSDC の近くにあるショッピングモールに連れて行ってってくれたりしました。私の下手な英語に耳を傾けてくれて、お互いジェスチャーをしながら話し、伝わらない時は考えて、理解し合えた時は嬉しかったし、そのことが言いたかったのか、とお互いスッキリしてたくさん笑って楽しかったです。



イギリスでは街中の人々も私たちにとても親切にしてくれました。初日に BSDC からホストファミリーの家まで送ってくれたタクシーの運転手さんは車内で、英語が全然話せないことに大丈夫だよと言ってくれたり、夜中で暗かったので一緒にホストファミリーの家を探してくれて私たちが家の中に入るまで見守ってくれたりしました。他にも、道が分からなくて突然話しかけてしまった 2 人組の女性や、お店の店員さん、ロンドンの地下鉄で隣に座った男性、みんなとても優しく接してくれました。

4 衣台高等学校

小西 礼真

(1) ホストファミリーの紹介

こちらは僕がダービーシャー事業で住まわせて頂いたルイスさん家の家族です。



左から、ルイスさん、ポッピー、デイビットさんです。まずルイスさんから紹介します。

ルイスさんは非常に優しく、そしてフレンドリーな人です。僕がイギリスに着いてルイスさんの家に向かう車の中でも「緊張している？取り敢えず楽しんでいってね！」等、イギリス現地の人と関わった事もなく非常に不安だった僕に対して気楽に話してくれて、「イギリスってこんな感じで話していいんだ！」と思わせてくれました。ルイスさんは仕事が終わった後、家のリビングでくつろぐのが大好きで、ソファに座りながらよく一緒にイギリスのテレビ番組を見たりしていました。

次にデイビットさんです。デイビットさんは非常に器が大きく、そして彼の作った食べ物は飲食店で食べる食べ物に匹敵するほど美味しかったです。彼もルイスさんと同じく、優しくフレンドリーな人ですが、何よりもデイビットさんが作った料理が驚くほど美味しかったです。僕がホストファミリー宅に泊まって 2 日目の時、その日は日曜日だったので、デイビットさんがイギリスの伝統料理であるサンデーローストを振る舞ってくれたのですが、これがもうイギリスで食べた物の中で一番美味しかったです。

最後にポッピー、彼女はまだ小学生ですが、沢山僕に話して来てくれて非常に好奇心溢れる子でした。僕が過ごしたホストファミリーの人達は非常に優しい人ばかりでした。

(2) 言語が違ってても....

今回のダービーシャー派遣事業を終えて感じた事は、国の言語、文化が違ってても、伝えたい！という意志があればどんな人とでも伝えあうことができ、感情を共有できるのだなと感じました。最初、自分がこの事業の派遣生に選ばれた時、最も心配だった事は

自分の気持ち、伝えたいことが外国人の人に伝わるのか？という事でした。幾度かの事前研修があったとしてもです。この研修で学んだ事を僕は海外でしっかりと活かせるのかとも感じたりしました。その心配も束の間、遂にイギリスのダービーシャーに行く日がやってきました。家族と一週間の別れの挨拶を済ませ、新幹線に乗り、名古屋から東京、東京から羽田、羽田からイギリスと流れるように向かって行きました。この移動時間は約 14 時間という膨大な移動時間でしたが、僕にとってはこの心配のせいで体感時間が 24 時間に感じました。

そしてイギリスにやってきました。イギリスのヒースロー空港に着いて、「街並みは日本と同じだな...」と最初に感じました。空港からバスに乗り、BSDC に着き、遂にホストファミリー宅へと向かう時が来ました。この時、ホストファミリーの人達に迎えに来てもらってホストファミリー宅に行くか、ホストファミリー宅まで BSDC 手配のタクシーで送ってもらうかという感じでした。当初は、ホストファミリー宅までタクシーで送ってもらう予定だったのですが、実際にタクシーの合流地点に行ってみると...なんとホストマザーのルイスさんがいました。これは予想外の事態でした。出国前にやりとりしたメールではタクシーで来てねと言われていたのにまさか迎えに来ていたとは....

まだ心の準備ができていない僕は心臓バクバクでした。果たして僕の伝えたい事、気持ちが伝わるのか？という最も不安で心配な事が頭を過ぎる中、ホストマザーのルイスさんが一言「Nice to meet you! Today is really cold. Isn't it?」と言いました。僕もすかさず返事をすると笑って返してくれました。ホストファミリー宅へと向かう車の中、ルイスさんに僕から話す事は余り無く、逆にルイスさんから僕に一杯話しかけてくれました。「どのくらい飛行機乗ったの?」とか「調子どう?」とか気楽な質問を一杯してくれました。僕もその質問に拙い英語で答えました。この時もさっきの不安で一杯でした。ですがルイスさんの「今どんな気持ち?」という質問に僕が「とても緊張しています」と答えたときに返ってきた「心配しないで!何か言えば伝わるから!リラックス!」という答えに僕の心配はすっ飛びました。ここからは自分が伝えたい事をただ相手に合わせて変えるのではなく、本当に自分の本心を伝えられるようになりました。ホストファミリー宅に着いた後はコークパイというイギリスの伝統料理を食べ、シャワーに入って、長い長い一日目を終えました。ここからは本当に一瞬のような七日間でした。

二日目はホストファミリーと親睦を深め、三日目は BSDC に初めて登校して、現地の生徒たちと一緒に英語の授業を受け、四日目はアフタヌーンティー体験と茶道紹介、五日目は TMUK 及びダービーシルクミルミュージアム見学、六日目はカルチャーショー、七日目はロンドン散策、そして八日目は帰国、というどれも忘れがたい思い出です。

この中でも自分の伝えたい事をしっかり伝えられたと思えた日は、やはりカルチャーショーの日です。当日は朝からカルチャーショーの為に準備をしていました。カルチャーショーでの自分の担当は折り紙の「手裏剣」でした。事前研修の時からカルチャーショーの準備をして、そのカルチャーショーの当日の朝からもしっかりと準備をしていま

した。そして来たるカルチャーショーの時間、会場の中は一杯のお客さんで熱気に溢れていました。そのお客さんの中には自分のホストファミリーもいましたし、ダービーシャーの議員さんもいましたので非常に緊張しました。カルチャーショーの最初は剣道の型の紹介から始まり、その後、日本文化の色んなブースに分かれた所にお客さん自身が足を運んで体験してもらおうという流れでした。この剣道の紹介が終わった後、一斉にお客さんがブースの方に来ました。そして、僕は折り紙ブースに来た人に手裏剣の作り方を説明しました。これがなかなか難しかったです。原稿は用意していたものの、その原稿どおり伝えてもなかなか伝わらなかったのも、動きも取り入れて情熱的にやってみたら伝わりました。英語でこういう細やかな説明が必要な時は、少しでも伝えたい意志をもってやれば伝わると感じました。

この自分にとってとても為になる海外派遣は自分に良いものをもたらし、そして感じさせてくれました。今後の人生においても、このような機会を活かして、コトバが通じない国でも活躍できるようにしていきたいです。



5 猿投農林高等学校

川原 菜緒

(1) ホストファミリーの紹介

私のホストファミリーは、Eleine というホストマザーと、Hefin というホストファザーの二人がいました。Eleine の娘さんの Michel とその息子の Archie もいました。

エレンさんは水泳スクールの先生をやっています。私たちがイギリスに行った時は手首を捻挫していたため、一回も仕事に行っていませんでした。でも、ずっと家にいたので、なんかあったときに連絡がしやすく良かったです。エレンさんのお母さんは柔道をやっています。しかも、黒帯だとのこと。姉妹で柔道をやっていたそうです。エレンさんの趣味は家の庭のガーデニングと家の近くにあるテニスコートでテニスをする事だそうです。エレンさんのお姉さんは蜂蜜を作っています。

ヘヴェンさんの出身イギリスではなくイギリスの中にあるウェールズと言うところです。ウェールズの公用語は英語もありますが、ウェールズ語と言うのがあって英語のようなアルファベットとは全く違います。ヘヴェンさんの実家には犬がいます。そのため、とても犬が好きです。ですが、エレンさんはそこまで犬が好きではないようです。ヘヴェンさんはバイクに乗るのもとても好きです。ヘヴェンさんは最近までウェー

ルズにいたので、ホームステイに慣れていませんでした。ですが、お互いに緊張がほどけるとたくさんジョークを言ってきます。とても面白い人でした。エレンさんは結構前からホームステイやっていたので、ゆっくり話すことになれていました。そして、ホストファミリーはどこかに出かけると必ず最後にカフェに寄ってコーヒーとケーキを食べるのが日課だそうです。そのため、お気に入りのカフェを教えてくださいました。エレンさんとヘヴエンさんは実は再婚していました。小さい頃に出会ってはいたらしいです。そのため、子供がとても多いです。お二人ともとても良い人です。



(2) 一生の思い出の1週間

私はこのダービーシャー高校生派遣でイギリスに行けてよかったなと思いました。私は帰国子女ではありませんでしたが、5年程授業以外で英語に触れることがなくて空白を感じており、現地の人とうまく話せるかとても不安でした。

タクシーでホストファミリーの家に向かいましたが、玄関のドアを開けるのにすごくドキドキしたことは忘れません。自分から積極的に話しかけると決めていたのに、初日は緊張しすぎて yes, no でしか会話をする事ができませんでした。ホストファミリーは緊張していることを分かっていたので、私たちにたくさん質問をしてくれてとてもありがたかったなと今でも思います。一週間しか滞在できないってわかっていたのでずっと話しかけられるのを待っているはいけないと感じ頑張ろうと思いました。上手く自分が思っていること伝えられなくてもホストファミリーやバディたちが助けてくれました。そして私は「自分ならできる」あの時の感覚を思い出そう自分に言い聞かせていました。また、自信のない私に「あなたの英語はとてもいいよ」となどの嬉しい言葉をよくかけてくれました。結構その言葉に救われることができました。だんだん自信がついてきてホストファミリーやバディに自分から話しかけることができるようになりました。バディと一緒にランチをしたり、放課後にショッピングしたりなど、毎日充実した日を過ごすことができました。

この1週間を楽しく過ごせたのは、ホストファミリーや BSDC のバディたちのほかに引率者を含め19名のメンバーのおかげだなと思いました。私は現地の方がなにを言っ

ているのかは理解できるのですが、他の子と逆で文法がしっかりしていないので、自分の意見や意思を伝えるのに苦戦しました。なので、仲間が話しているのを聞いていい勉強になりました。また、お互いに困っている時は助け合える、私には必要不可欠な仲間でした。放課後や移動中はずっと話していました。正直話が尽きることがなく、皆と同じ時間を過ごせて、出会えてほんとはよかったなと嬉しく感じています。

イギリスで一番驚いたことは、イギリスの方々はみんなバスを乗ったり、降りたりするときに必ず「thank you」って運転手に言っていたことです。日本だとほとんどの人が言っておらず、私も意識しているときは言いますが必ず言うわけではないので単純にすごいなと感じました。また、後ろを通りたくて道をあける時とかにも言っていました。なんでもまず、ありがとうと言える文化はとていいなと感じました。言ってもらえるのもうれしいので、私はこれから何事にも感謝の気持ちを忘れず、ありがとうと言うように意識したいなと思いました。

BSDCのパディはみんな日本に興味がある人が来ているので、たくさん日本の文化を聞いてくれて単純にうれしく感じました。

私が一番印象に残っているのは、アフタヌーンティーです。初めてのアフタヌーンティーでは、自分たちでスコーンやサンドイッチをBSDCの生徒に教えてもらいながら、一緒に作り、食べました。どれもとてもおいしくてお腹がはち切れそうな程食べてしまいました。英語講座の授業でジャムとクリームのどっちを先にのせるのがいいのか教えてもらっていたので、その通りに行いました。生徒さんの中でもどっちからのせる派かを話していました。紅茶も好きだったのでとても優雅なひと時を過ごせました。



イギリスに行って、自分の体形を気にしなくていい文化がとていいなと思いました。イギリスなら足も普通に出せるしもっと自分が着たい服が着ることができると感じました。日本はスタイルを気にする文化があるからだろうと改めて感じました。

ロンドン散歩で起きた事件は一生忘れないと思います。たった数分で同時に起きる事があるんだなと思いました。一人の男子がスリにあい、私のカバンのチャックが壊れる、引率者とはぐれるといった事は今では笑い話になります。また、海外って感じの事件が起きたなと思いました。

私は、ホストファミリーに卵焼きときんぴらニンジンを作ってあげました。喜んでくれていたので、レシピを書いて置いてきました。おいしいって言いながら完食してくれてとても嬉しかったです。

イギリスで過ごした1週間、沢山色々な事がありました。でも、沢山の私の周りの人がサポートをしてくれたおかげで、楽しく忘れられない日々を送ることができました。本当に感謝しかないです。ありがとうございました。また、沢山のBSDCの生徒さんと写真を撮れてよかったです。私の思い出は、派遣の皆やBSDCのバディ、ホストファミリーに出会えたことです。こんなに家に帰りたくないと思ったのは初めてでした。なので、連絡は取り続けたいと思います。そのくらい派遣の皆、バディ、ホストファミリーが大好きでした。もう既にイギリスが恋しいです。1週間の思い出は忘れません。もし、またイギリスに行くことがあったら、ホストファミリーとバディと再会したいなと思いました。

6 豊田工科高等学校

佐久本 刀也

(1) ホストファミリーの紹介

僕のホストファミリーはお母さんと子供の男の子と女の子の3人の家族でした。最初に家に入った時からすごくフレンドリーに優しくしてくれてとてもいい人でした。ホストマザーは、お腹空いていないか、行きたい所はないか、などいつも僕のことを気にかけてくれていました。

僕は家族にお土産でワインを買いたかったのですが、未成年で買うことができませんでした。そこでホストマザーにお願いしたら快く引き受けてくれました。

男の子とは、日本のアニメやおもちゃのことについて話したり、学校で習っていることや将来の夢について話したりもしました。女の子には、おすすめのお菓子を教えてもらったり、ペットのトカゲを見せてもらったりしました。

1日目は、ホストファミリーとの時間がありました。そこで、男の子が習っているラグビーを見に行くことになりました。軽くボール投げさせてもらいました。その後ショッピングモールまで連れて行ってもらいました。他にも、朝ごはんと夜ごはんはとても美味しくて毎回違うメニューを考えてくれて、毎日のごはんが楽しみでした。1番美味しかったのは、作ってくれたガーリックパンでした。最後の日には、日本から持って行った木刀をプレゼントした時に「Thank you」と言ってハグをしてくれました。最後の最後のお別れの時にもハグをしてくれました。とても心が温まりました。本当に良い雰囲気の家でした。



(2) 人生の宝物

僕はこの派遣で初めて海外に行きました。中学生の頃からずっと海外に行って日本とは違う環境に揉まれてみたいと思っていました。何も知らないままイギリスに行き、違う環境で育った人間と一緒に生活をしたり英語で会話をしたりすることにとっても不安がありました。でも、今回のイギリスの派遣でいろいろな力を身につけることができ、何も知らなかった海外への不安が減りました。

一つ目に付いた力は、英語力です。日頃、学校で毎日のように英語の授業を受けて単語を覚えたり、文法を教わったりしているけど、実際に英語を聞いたり話したりする機会が少ないことに気づきました。実際イギリスに行って、現地の人たちの英語を聞いていて、だんだん耳が慣れて聞き取れるようになっていたり、現地の人たちの表現の仕方を真似したりしてスキルアップできたと思います。

二つ目に付いた力は、コミュニケーション能力です。イギリスに行った時は分からないことだらけでした。ホストファミリーの家でのルールについて、バス停までの行き方について、学校での過ごし方などたくさんわからないことがありました。これらを分からないままにしておけなく、誰かに聞かないといけないので、積極的に自分から現地の人たちに聞いたり頼んだりしていました。現地の人たちが優しく答えてくれるので、人に話しかけることの抵抗がなくなりました。これからも分からないことは素直に聞ける人間でいたいです。

最後に、付いた力は自信です。僕は学校や部活で人前に出ると、もじもじしてしまうことがよくありました。でも、正しい英語も話せないのに、はっきり話せなかったら相手に伝えることができないので、イギリスで自然と声も大きくはきはき話すようになっていました。日本に帰ってきてからも自信を持って話せるようになりました。他にも、僕は人の気持ちやこれからのことを深く考えてしまうことがよくありました。

イギリスでたくさんの人と英語でコミュニケーションをとったことや、イギリスで一週間生活をしたことで、自分にとってとても自信になり、考えすぎることがなくなりました。これをこれからの人生での自信として、忘れないで生きていきたいと思いました。これらの身についた力を、大人になって仕事や生活で活かしていきたいです。

身についた力のひとつである英語力についてたくさん思ったことがあります。僕は、学校の英語のテストでは毎回良い点数を取れていて英語ができると思っていました。でも、今回の派遣で、ほとんど話せないし聞き取れないことに気づきました。でも僕は、英語は日頃僕たちが使っている日本語と同じで、言語なので誰でも話せるようになるし、聞き取れるようになると思いました。なので、この派遣をきっかけに僕は本気で英語について勉強しようと思いました。単語や文法は学校で習うことができるので、「話す聞く」を意識して勉強を進めていきたいです。

英語の勉強を頑張ろうと思ったきっかけがあります。英語でたくさんコミュニケーションを取っている中で、全然聞き取れなかったり、伝えることができなかったりするこ

とがよくありました。ですが、相手の言っていることが少し理解できたり、上手く自分の意思を伝えることができたりして、英語が伝わることの嬉しさと楽しさを感じることができました。これをもっと味わうには、もっと英語のスキルを上げることが必要だなと思ったからです。

次に、僕が一番楽しかったことについてです。それは、TMUK への訪問です。僕は、就職希望で 2 ヶ月前くらいから企業を調べ始めていました。その中にトヨタ自動車もあり、いろいろ調べていました。でも、調べていて思ったのは、紙に書いてあることや web に書いてあることだけでは会社の雰囲気はわからないということです。

今回 TMUK に行くことができたことで、働いている人の雰囲気や工場内の機械の動きなど、紙では知ることのできない様々なことを見ることができました。現場で働いている人と話して、トヨタ自動車はどのような企業なのかということや、トヨタ自動車の中でもどんな種類の仕事があるのかについてなど、調べるだけでは分からないことを聞くことができました。他にも、出向で英国に来て働いている日本人ともたくさんお話をしました。ある人はトヨタ自動車の経理関係の仕事している人、ある人は工場の設備を管理している人など、様々な仕事をしている人がいました。その人達からは、海外で働くことの大変さについて教えてもらいました。英語でのコミュニケーションという言葉の違いの大変さや、異文化理解の大変さなどという、日本との様々な価値観の違いについて知ることができました。本当に良い経験になりました。

最後に、この派遣は自分のこれからの人生の宝になると思いました。高校生の時にこんな良い経験ができて本当によかったと思います。イギリスの大学に行ったり、TMUK に行ったりと絶対に自分の力だけでは経験できないようなことができたのは自分のスキルとして大切にしていきたいと思います。また、この経験を活かせるような仕事に就きたいと思いました。仕事以外でも人間関係や社会生活でも活かしていきたいです。



7 足助高等学校

関原 優心

(1) ホストファミリーの紹介

僕のホストファミリーはホストマザーの Lisa と 17 歳の女の子 Evie と 13 歳の男の

子 Alfie でした。ホストファミリーと初めて顔を合わせたのは真夜中で、長時間にわたる移動で疲れていた僕を優しく迎え入れてくれました。その次の日には自己紹介とともに日本から持ってきたお土産を渡しました。実はその日は英国の母の日であり、ホストマザーはとても喜んでくれました。

夕食を食べた後、日本での暮らしについて話していると自分の家で飼っている猫の話で盛り上がり、Evie は自分のペットであるトカゲを連れてきて僕の腕の上に乗せてくれ、とても楽しい時間を過ごしました。また男の子の Alfie はよく話しかけてくれて、ゲームを見せてくれたり、日本のアニメの話をしてくれたりしました。また、目が合うといつも笑ってくれて緊張せずに英語を話せました。

ホストマザーは仕事で朝早く家を出るにもかかわらず、優しくおはようと毎朝声をかけ、会話中に言葉が聞き取れなかったときには、話すスピードを落としたり、ジェスチャーを使って伝えようとしてくれました。また、夕食前には今日あった出来事について毎日聞いてくれ、とても嬉しかったです。ホームステイ最終日には「初日と比べて英語をよく理解して話せられるようになったね」と言われ、英語に自信をつけられました。またイングランドに行くときにはホストファミリーにもう一度会いに行き、思い出話をしたいです。



(2) 初めての海外

僕は小学生のころから留学に憧れていました。自分のまだ知らない世界を体験して、価値観を広げたいと考えていたからです。ですが僕はもともと自分からコミュニケーションをとることが苦手で、留学先でうまくやれるのかずっと不安でした。なので、日本を発つときに「絶対に自分から話しかける」と心に決めました。長い時間をかけてイギリスへと向かっていくうちに決意が固まり、これから体験することへの期待で胸が高鳴りました。

イギリスについたのは真夜中で、少し緊張しながらホストマザーと会話をしたらその日は寝てしまいました。次の日には自己紹介と一緒に土産を渡しました。その時、土産の説明をしようとしたら言葉に詰まりました。自分の考えている言葉の英語の訳が

全然出てきませんでした。とっさにスマホの翻訳機を使ってしまいました。また、自分の発音の仕方が悪く、考えていることがうまく伝わりませんでした。自分から話しかけても英語が下手だから会話が続かない。そこからどうすれば伝えられるか一晩考えたとき、簡単な単語と文法を使うことでコミュニケーションを取るようにしようと考えました。そこから自分が今何を伝えたいかを考え、それに最も近い簡単な英語を選ぶようにしました。また、英語を聞き取ることに関しては、聞き取れなかったら必ず聞き返して、聞き取れたら簡単な英語で意味を確認するようにしました。最初は会話としてはスピードが遅く、自分は受け身なので盛り上がりえずにいて、とても悔しかったです。「もっと単語を知っていれば」と、何回も思いました。ですが、そこから何回も会話していくうちに英語がわかるようになっていきました。それは英語に耳が慣れると同時に「話の流れ」を掴めるようになったからです。会話の中で分からない単語があっても、相手のリアクションや言葉のニュアンス、話の流れから意味を推測することでコミュニケーションを取れるようになりました。完璧に英語を理解したわけではありませんが、ある程度会話ができて自信がつかえました。初めから完璧な英語を話す必要はなくて、楽しく会話することが大切なのだと気づきました。

カルチャーショーで僕はベイブレードの紹介をしました。その準備をしている時、ある BSDC の生徒さんにベイブレードを勧めました。そうしたらベイブレードに夢中になって、一緒に楽しみました。その人はとても話すスピードが速くて、単語も途切れ途切れでしかわかりませんでした。ですが一緒に楽しんでいると相手が何を言いたいのかわかり、また相手も自分が何を言いたいのかわかってくれました。お互いに共有できるものがあると言葉は必要ないと感じました。

この留学で「積極的なコミュニケーションの大切さ」を実感しました。現地の人たちはみんな紳士で優しくかったです。また、積極的にコミュニケーションをとってくれました。お店で買い物や、ご飯を食べている時に店員さんに話しかけてもらったり、タクシーの運転手さんに話しかけてもらったり、最終日にヒースロー空港近くのホテルのエレベーターの中でホテルのお客さんに話しかけてもらったりしてもらいました。そこから相手の出身を聞いたり、日本についての話題を話し合ったりしました。

僕は日本を出る前に決めていた目標である「自分から話しかける」の半分は達成できたと思っています。残りの半分はできませんでした。それは、自分が会話の主導権を握って話し続けることです。どうしても受動的になってしまい、相手からの質問を待っていたことが今回の留学の反省点であり、話を続けられる自信がなかったことが原因でした。とても悔しく感じました。次はもっと自分から喋りに行きたいと強く思いました。なので、僕は大学でまた留学するつもりです。今回は約一週間という短い期間でしたが次は一年程度留学して英語だけでなく、国の文化や生活様式を学びたいです。また、留学だけでなく国際交流イベントや、日本語教室や観光ボランティアに参加して様々な人と関わりたいです。

この留学で僕はたくさんの人にお世話になりました。そのおかげで忘れることができない充実した一週間となりました。今度は自分たちが留学生を優しく受け入れられるような立場にならなければいけないと思いました。留学中にできたことと、失敗したことを糧にしてこれからの人生に繋がられるようにしたいです。



8 豊田北高等学校

伊藤 佑華

(1) ホストファミリーの紹介

こちらの写真の2人が私のホストファミリーです。



旦那さんの方が Andrew で、奥さんの方が Claire です。2人には現在、子供が8人、孫が14人いる大家族です。ホストファミリーの家には息子夫婦も一緒に暮らしていました。家は3階建てで広い庭もありました。土足だったので少し違和感がありました。家を紹介してもらった時、驚いたことに庭で黒色の鶏を飼っていました。毎朝、卵が生まれているか確認して卵を回収していました。Andrew が卵を触らせてくれて、その卵はまだ暖かく、暖かいままの卵を触ったことが無かったので大きな経験となりました。家には Lily という犬がいました。

Andrew は Claire とペットをケアするビジネスを営んでいます。Lily はとても人懐

っごく、私はすぐに彼女が好きになりました。一家は日曜日に教会に行き家族で特別な時間を過ごすそうです。ホストファミリーと過ごす日が日曜日だったので、私も午前中教会に行って、午後にイギリスの歴史的建造物、運河、ボート、街並み等を見て回りました。

夜にはみんなでディナーに行き、イギリス料理を楽しみ、ボリュームに少し圧倒されました。子供の1人である Matty はとても元気で面白く、沢山話しかけてくれました。私のホストファミリーは本当に優しくかったです。Andrew は私の不慣れな英語を理解してくれて、イギリスの歴史を沢山教えてくれました。Claire は私が上手く英語を話せない時、私が言いたいことを理解してくれて、こう話すのだよと教えてくれました。

Claire は私の英語の先生でした。Claireのおかげで英語に自信が付き、最初の頃より話せるようになりました。Andrew と Claire が私を受け入れてくれて本当に嬉しかったです。

(2) 最高のイギリスでの9日間

イギリスでの感想を5つに分けて話したいと思います。

1つ目はホストファミリーについてです。ホストファミリーと過ごすことは、行く前からとても緊張していました。ホストファミリーの方から事前に連絡をもらって、文章から温かさを感じました。WhatsApp を交換していて良かったと改めて思いました。ホストファミリーである夫の Andrew、奥さんの Claire はとても優しくかったです。家の外観、内装は日本と違い英国風で素敵でした。庭もとても広かったです。最初の日には土足に少し違和感がありましたが、数日経って慣れていきました。私は9日間過ごしてイギリスの方々はとてもフレンドリーだなと感じました。そう感じたのは、次のようなことがあったからです。Lily という犬を飼っているの、朝、Claire、孫の Ben と散歩に行きました。その時 Claire は親戚の人と挨拶をして仲良く会話を始めました。そんな場面にイギリスって素敵だなと感じました。イギリスの友達も大学の先生も困っていると心身に耳を傾けて下さり、助けてくれました。私の英語が上達したのは Claire が英語を教えてくれたおかげです。Andrew も私の不慣れな英語を理解してく下さり、沢山イギリスの歴史を教えてくれました。

2つ目は食事についてです。イギリス料理はあまり美味しくないという噂ばかり聞いていたので少し不安でした。しかし、Claire が作ってくれる食事は全て美味しかったです。お米は一切出ませんでした。毎回の食事でおなかいっぱいになりました。日本と味付けは違いますが、家庭料理を食べることができて嬉しかったです。例えばシェパードパイ、パステイ、もちろんフィッシュアンドチップスも食べました。最終日の朝にはフルイングリッシュブレックファーストを作ってくれて、とてもリッチな朝食を食べられました。ボリュームの多さを少し感じましたが、自由に料理を盛り付ける方式だったので問題ありませんでした。イギリス料理はとても美味しかったです。

3つ目は異文化交流です。4日目にアフタヌーンティーを体験しました。紅茶がとても好きなのでアフタヌーンティーはとても楽しみにしていました。思っていた以上にマナーがあったので驚きました。スコーンの食べ方や紅茶の飲み方など教えてもらいました。その後、私達も日本の伝統文化である茶道について説明して、実際に抹茶をたてました。向こうの方が抹茶を気に入って下さりとても嬉しかったです。イギリス人の友達も後で、とても美味しかったと言ってくれました。私もアフタヌーンティーを楽しみ、大学の皆さんも茶道を楽しんでくださりとても嬉しかったです。お互いの文化にふれあい、良さや楽しさを体感し異文化を理解しました。この異文化交流はとても素敵なものになりました。

4つ目は大学での生活です。大学ではたくさんの外国人の方と交流することが出来ました。英語の授業では英語のフレーズを勉強し、実際に使ってみたり、大学の生徒とゲームをしたりしました。放課後は現地の大学生とショッピングをしに行きました。現地の大学生と交流出来たのは大きな経験だなと思いました。優しい英語で話しかけてくれて、私の言いたいことを理解してくれて、おすすめの場所やお菓子などを教えてくれました。大学のすぐ近くにショッピングモールがあったので、一緒に沢山遊びに行きました。大学生達とすぐ友達になれました。ホストファミリーと別れる前日、カルチャーショーを開いて、書道、折り紙、浴衣、侍、等を紹介しました。大学生達が積極的に準備に協力してくださり、いらっしゃったホストファミリーの方々も、とても興味を持って楽しんでくれました。日本の文化を楽しんでくださり、私が書道の当て字をあげた時に"ありがとう"と言ってくれてとても嬉しかったです。

5つ目はロンドン探索です。ここでは海外の怖さ、治安の悪さを全員で実感することが出来ました。ロンドンの街並みは統一感がありとても綺麗で、バッキンガム宮殿、ビッグ・ベンはとても素敵でした。最後に、この9日間イギリスで過ごし、英語のスピーキングにかなり自信がつき、行く前より話せるようになったなと思いました。これは私がイギリスに行って1番大きなことでした。行くか行かないかではとても大きな差だと実感しました。行って後悔することはないと思います。さらに言語を学ぶだけでなく、イギリス人に溶け込むようにホストファミリーと日常生活を過ごし、大学にも通うことができたので文化も知ることができました。9日間でかなり最初より話せるようになったので半年行けばさらに話せるようになるだろうなと実感しました。短い期間でしたが、身も心もイギリス人に近づくことが出来ました。絶対に近い将来、イギリスにもう一度行きたいと思いました。今回の派遣を通して、日本と海外との国際交流を行う仕事にとっても興味がわきました。言語を学ぶだけでなく、文化も知っていき、将来に向けて頑張ろうと思いました。

(1) ホストファミリーの紹介

この写真に写っているのは私と同じ派遣団の子と私がイギリス、ダービーシャーでホームステイした際にお世話になった Nick と Susan です。



二人はとても優しく何度かホームステイ受け入れをしていて、私たちによく話しかけてくれたり、分からないことがあっても丁寧に教えてくれたりとホームステイをしている間、常に私たちを助けてくれて私たちが楽しく過ごせるようにしてくれました。実際に私はあまり話すことが得意ではなく、初めて海外に行くということもあってとても緊張していたのですが、二人がよく話しかけてくれたおかげで自分からも今日の出来事を話すことができるようになり、楽しいホームステイができました。

イギリスに到着した翌日には家が BSDC にかなり近いこともあって、BSDC への行き方やその周辺について教えてもらいました。他にもホストファミリーの友達の家に行って UNO や卓球を楽しんだり、その日が日本の母の日に当たる Mother's Day だったのもあってホストファザーのお母さんの家に行ってスコーンやクッキーを食べながら話したりしました。

ホストファミリーと過ごした時間では、派遣のプログラムでは出来ない実際の現地の人たちの生活などを知ることができたり、より多くの人たちと話をすることができたりととても貴重で大切な経験ができました。

私は最初の海外派遣でこのような素晴らしい経験としてホームステイができて良かったと改めて感じました。

(2) 派遣を終えて

私は今回のイギリス、ダービーシャーへの派遣として実際に現地へ行ったことを通して印象に残っていることは、学校など日本にいるときには知ることができない文化や日本との違いを身に染みて感じることができ、改めて日本のすばらしさやありがたみを再確認できたことです。

まず私が気づいたことはキャッシュレス化が日本よりも進んでいることです。特にロンドンではクレジットカードのみ使える店舗が多く存在し、カードを持っていないとできることがかなり減ってしまうということを学びました。私も土産物店で買い物をしようとしたら現金しか持っておらず、十分な金額があるにもかかわらず、お土産を買うことができないという予想外の出来事に困惑してしまいました。バートンなど BSDC の周辺ではカードしか使えない店こそなかったものの、現地のスーパーで買い物をした際にカードのみ使えるセルフレジが全体の半分近くあり、イギリスでは全体的にクレジットカードなどが生活に浸透しつつあるということを知ることができ、クレジットカードの偉大さについても学ぶことができました。

他にもイギリスの文化について知ることができました。ホストマザーにスーパーマーケットに連れて行ってもらった時特に印象に残ったのは、スーパーを訪れて実際に感じた食を中心とした日本との文化の違いです。日本とイギリスは地理的にかなり離れているだけあって、売られている商品一つ一つに文化が表れていると感じ、日本では知ることができないことを多く学ぶことができました。その中で私が最も驚いたことは、日本とは比べ物にならないくらい種類の鶏肉が冷蔵庫一面に陳列されていたことです。日本には売っていないくらい大容量なものや丸ごとで味付きのものも豊富にありました。加えて夕ご飯に鶏肉を使った料理をホストファミリーにごちそうしてもらったことが多かったのもあって私たちが思っていたよりも鶏肉は身近な食材であると感じました。他にもポケモンや日本料理などの日本の商品からベジタリアンなど向けの豊富な種類の食品やチーズなどイギリスの有名なもの、日本では売っていないような珍しい野菜などスーパーマーケットだけでも日本とは違うものをたくさん見つけることができました。中でも商品が小分けで売られていることが多い日本に慣れている私たちからすると、大容量に感じられる商品も私には消費しきれぬのか不安になりつつもそのような細かいところからも文化の違いを感じることもできました。

そして、日本で馴染みのあるものがイギリスでは違う認識をされることが多いということを感じました。私はカルチャーショーのために日本から木刀を持ってきたのですが、そんなところでもこれが文化の違いなんだなあと思わせられることがありました。私たちが日本から出国したときは特に何事もなく木刀を袋に入れたまま預けることができました。しかしイギリスから出国する際、木刀が刃物だと思われてしまい、結果無事に持ち帰れたものの、日本から出国するときよりも重包装で預けることになりました。日本とイギリスでの認識の違いに最初は混乱してしまいましたが、そのようなことも貴重な経験になったと改めて感じました。

最後に私が気づいた違いは、日本よりもイギリスのほうが店の閉まる時間帯が早いことです。私たちは BSDC で過ごした後、よく近くにあるショッピングモールに行くことが多かったのですが、そこの店の多くが 16 時くらいには閉まり始めていました。日本ではそこまで早い時間にお店が閉まることはないので、最初の頃はとても驚きました。

日本では残業が多いため、基本的に閉店時間ぎりぎりまでお店が開いていることが多いことに比べ、イギリスでは残業があまりないのか、絶対に残業をしないという店側の強い意志の表れを感じました。

今回のイギリスへの派遣を通して、今まで日本にいただけだと知ることができなかったイギリスの文化、良いところを肌で感じ、多くの事を学ぶことができました。それだけでなく今まで当たり前のことだと思っていて、気づくことができなかった日本の良いところを再確認することができました。そして日本で暮らせることのありがたさを身にしみて感じました。私はこの貴重な経験をより多くの人に知ってもらい、その人達にイギリスに対する理解を深めてもらい、さらに日本の良いところを再確認してもらいたいと思います。そして私自身も今回の経験を活かしてこれからも自分の英語力を磨き、これからイギリスをはじめほかの国々へ行く機会があれば、今回学んだことを心に刻んでより多くのことを学び、将来につなげていきたいと思います。



10 豊田南高等学校

大河内 和

(1) ホストファミリーの紹介

私のホストファミリーは50代の女性の方です。子供やペットはいませんが、友達が家の近くに沢山居ます。彼女は、日本人ではあまりいませんが、ヴィーガンなのでお肉や魚は食べていませんでした。職業はインテリアコーディネーターでしたので部屋全てがとても素敵でした。

イギリスに到着した初日が mother's day (日本で言う母の日)だったため、ホストマザーのお母さんに会いに行きました。メッセージカードとお酒をプレゼントしました。ホストマザーもお酒が好きでしたので、日本からのお土産として、私の両親が旅行に行った際に買ったヨーロッパの方に人気の日本酒を選び、ホストマザーにプレゼントしたら喜んで貰えました。ホストマザーは母親を大切にしている事がわかりました。私のホストマザーは、母親だけでなく私たちや周りの友達も大切にしていました。例えば、私たちが分かりやすいような簡単な英語を使ってお話をしてくれました。なので、とても聞き取りやすく楽しく会話ことができました。それに、私たちの話を聞いて真剣に聞いて理

解しようとしてくれたので、私はとても話をしている楽しかったです。朝、遅刻しそうな時は学校まで送ってくれました。

そんなホストマザーが大好きで、おかげで1週間の短いホームステイも安全に楽しく過ごせました。

(2) 初めての留学

私がイギリス短期留学を終えて学んだことは4つあります。

1つ目は、自分に正直になること。私は英語を話したい、現地で友達を作りたいという気持ちだけで行動していました。周りの子が自分から話に行っていたり、現地の子と仲良くしたりしている姿を見て、私もそうなりたいと羨ましく思い、思うままに行動していました。数日経つと何をしたいか、何故しているのか、自分の気持ちが分からなくなりました。気持ちも上がりませんでした。イギリス留学が始まってからは、ホストファミリーの家に着いたらご飯を食べ、お風呂を済ますと疲れてすぐ寝てしまうことが多かったので、自分で気持ちを整理する時間が全然ありませんでした。そんな時に、私の好きな1人ショッピングへ授業後に行きました。好きな曲を聞きながら自分の目がきらきらするようなものを見て、カフェに入って好きな紅茶を頼み1人で気持ちを整理しました。そうすると、自然と自分の思っていたことが出てきたのでノートに書き連ねました。それを見て、今まで自分の気持ちと違う行動をしていた事に気が付きました。整理が出来なかった自分の気持ちを整理することが出来て、自分だけ置いていかれているのでは無いかという不安や劣等感が減り、心が軽くなりました。それからは、自分の気持ちを第一優先にして行動していたらいい方向に進んでいきました。これから始まる受験で行き詰まってしまった時には、また自然に出た自分の気持ちをノートに書き、気持ちを整理しようと思いました。

2つ目は、現地の方が話す英語を真似すること。この方法が1番ネイティブ英語を使うことができると私は思います。教科書や授業で同じニュアンスの単語を覚えますが、現地で使われていない単語を発言すると違う意味で捉えられてしまうことが多々あります。なので、ネイティブの方が使っている単語を小声で復唱してみたり、真似して使ったりしました。そうすることで自分の知らなかった言い回しや語彙が増えて自然に英語が出てくるようになりました。反応の仕方や返事、簡単な文は人によって使う単語が違って来るので気にして話を聞いていると個人差が出ていて面白かったです。

3つ目は、日本で英語を話せる機会を自分で作ること。私が日本に帰ってきてホストファミリーやBSDCの学生と連絡をとる以外全くネイティブ英語に触れられません。1週間頭がパンクするくらい英語を耳にしていたので、日本に着いて日本語しか聞かず1週間の頑張りがどんどん薄れていっている気がします。ホストファミリーや大学の友達と電話をしたいのですが、9時間も時差があると中々時間が合わず電話はできません。なので、以前やっていたオンライン英会話を再度始める事にしました。本当は日本にい

る外国の方と友達になり自分で英語を話せるコミュニティを設けたいのですが、受験もあり出来ないので手っ取り早くオンライン英会話を選びました。オンライン英会話をしている最中、英語を話していると、イギリス留学をしていた時の思い出が蘇りました。そういう意味でもオンライン英会話をするのはいいなと思いました。オンライン英会話はお金がかかるし直接話が出来ないので、受験が終わったら自分で英語を話せるコミュニティを設けたいと思います。

4つ目は、結局コミュニケーションは言葉だけじゃなくてジェスチャーや表情で伝わるとのこと。私が現地に行って1番感じたことです。イギリス留学初日にホストマザーから「言葉で伝わらなくてもジェスチャーや表情でいくらかでも気持ちを伝えることができる」と教えてもらいました。なので、ホストファミリーや友達と話す時や自分が伝えたいことを話す時、咄嗟に英語が出なかつたのでジェスチャーや表情で伝えてみました。そしたら案外自分の気持ちが素直にジェスチャーや表情に出て、伝えたいことも相手に伝わったので驚きました。とは言っても、ジェスチャーや表情だけでは言葉のキャッチボールはできません。私は会話がスムーズに出来ないと話したい事が次々に進まず、相手も楽しくなくなってしまい仲が深まらないということを経験しました。現地の方と話すまで、友達作りや初対面の方と話す時の会話の広げ方に困ったことはありませんでした。しかし、現地でどういう話題が人気で、何を聞かれたら嫌なのかなどを調べていなかったのに重ねて英語で話さなくてはいけなかつたので、思うように会話ができませんでした。そこで、現地の方とよく話している友達を見てみると、何か相手に質問をして、話してくれたことに対して質問をしていました。どんどん相手のことを深掘りして相手のことを知っていくことが大切だなと改めて思いました。

今回のイギリス留学は1週間ととても短く出来ることも少なかつたので、次は今回よりも長く滞在し現地の方ともより深い関係を築けたらいいなと思いました。現地でネイティブ英語を使って会話し、友達を作るという私の夢が叶えられてとても自信になりました。この貴重な経験を次に活かしていきたいと思います。

11 豊田高等学校

石井 愛美

(1) ホストファミリーの紹介

私は French 家でお世話になりました。ホストマザーの Susan とホストファザーの Nick そして、派遣メンバーの美空と1週間過ごしました。Susan はとても健康的な人で私たちが BSDC にいった後市民プールへ泳ぎに行っていました。私は、私が泳げないことを伝えると「あなたは損しているわ。」と言われてしまいました。さらに水曜日の夜には女性のランニングクラブで走っていました。Nick は本を読むことが好きな人で家にはたくさんの本がありました。また朝食は毎日 Nick が作ってくれました。よく卵料理を出してくれたのですが、すっごくふわふわでとてもおいしかったです。二人は何度もホームステイを受け入れていてよく話をしてくれました。また、夕食後は毎日デザートが出てきました。21日に食べたケーキが私のお気に入りです。マドレーヌをぬ

って食べていると「それは自家製だよ。」と教えてくれました。いい感じの苦みがあってケーキの甘さが引き立っておいし方です。デザートを食べた後はカードゲームやボードゲームをして遊びました。特にscrambleというボードゲームが印象に残っています。難しいゲームでしたが英単語を覚えるのにとってもいいゲームだと思いました。

初めてのホームステイでとても緊張していましたが、二人のおかげで楽しく過ごせました。感謝してもしきれないです。本当にありがとうございました。

(2) Amazingな1 week!!

集合場所の名古屋駅に無事に到着しとりあえず安心していた私ですがこの時不安でいっぱいでした。初めてのホームステイ、、、緊張しないはずがないじゃないですか!!!! さらに事件は2日前に起こっていました。なんと体調を崩し学校を休んでいたのです! 当日までに回復しましたがまだ本調子ではなく、「終わった」と思いながら新幹線に乗り羽田空港へ向かいました。この時すでに体調管理の大切さを学んでいました。そして飛行機に乗り込み離陸の瞬間に胸を躍らせ離陸後数時間たって私は気づいてしまったのです。アメリカのほうからグリーンランドの上を通過して経由地ミュンヘンに向かっていると。「えっ、そっちから行くの????」既に限界を迎えそうな私のおしりと共に計約16時間の長いフライトの末ヒースロー空港へ到着しました。これから1週間の海外生活が始まるんだなと思い、出発前は不安しか感じていなかった私の心は一気にわくわくへと変わりました。

一週間の派遣期間を通して私が学んだことは3つあります。

一つ目は、伝えようとする事の大切さです。「間違えたらどうしよう。」「うまく聞き取れるか分かんない。」「すごく失礼なこと言ってないかな。」と怖がってばかりいると英語をしゃべる機会が全然ないどころか、ホストファミリーや現地の人との会話ゼロの時間が気まずくてしょうがなかったです。初日と2日目のBSDCにいる間、私はこのような状態になってしまいました。しかし、帰宅してから夕食までの間どうしたらよいのか必死に考え、夕食の時に今日の学校での出来事や自分のことなどいろんなことを話してみました。すると、自然と会話が広がっていき、昨日までの無言で気まずすぎた夕食の時間が少し楽しい時間になりました。途中、私の伝えたいことがうまく伝わらなったり、ホストファミリーの言っていることが理解出来なかつたりする場面もあったけれど、うまく会話がつながっているときの「はまっている感」がうれしくて自分から会話を始めることが怖いことではなくなりました。最終的に日本語で会話するときのような会話ができるようになったわけではないですが、そうなれるように努力したいと思いました。

2つ目は家族をとっても大切にしているということです。派遣初日は現地では母の日だったらしく、スーパーにはカードがたくさん売られていました。私のホストファザーのNickも自分のお母さんに手紙を書いていました。正直衝撃を受けました。日本での母の日は、私や妹がお母さんにプレゼントをあげることはあっても私のお母さんや、お

父さんが自分のお母さんにプレゼントを贈ることは少ないからです。そのあと Nick のお母さんの家に行って一緒にクリームティーをしました。その日は、「私たちが来ているからわざわざこういうことをやってくれているんだ。」と書いていましたが次の日その日の出来事を派遣メンバーに話すと「私もホストファミリーのお母さんの家行った！」「僕も！」とほとんどの人が同じようなことをしていたことがわかりました。そして「イギリスでの母の日はこういうものなんだな。」と思いました。また、閉店時間が早く学校終わりに町のほうへ出てショッピングに行ったときも少ししか時間がなく「なんでこんなに早いんだろ？」と書いていると“家庭の時間を大切にすから”と教えてもらいました。母の日に実際に家族の時間を大切にす様子を見ていたのでとても納得しました。

3つめは、当たり前だと思っていたことが当たり前とは限らないという事です。例えば日本ではバスは時間通りに来ますが、イギリスではそんなことはなく遅れて来たり、派遣メンバーの中にはバスが予定より早く出てしまい置いて行かれたという子もいました。また、日本では行く場所によって値段が変わりますが、イギリスではどこに行くときも2ポンドで行けました。他にも、日本人は小雨でも雨が降ったら傘を差しますが、現地人はフードを被るだけで傘をさしている人はほとんど見ませんでした。私もやってみたところ降ったり止んだりする変則的なイギリスの天気にはこれがベストだなと思いました。

一週間は本当にあっという間で少し物足りなさも感じましたが本当にいい経験になりました。初めてのホームステイ、初めての食べ物、聞きなじみのない音、建物のほとんどが赤レンガでできていて、ところどころに教会が立っている。目に映るもの、体験したことのほとんどが新しく登下校の時さえも景色がキラキラして見え、まるで別世界に行ったような気分になりました。しかし、頑張っ勉強していたはずなのに私の英語力では理想のようにはいかず、苦労したことも多くあったので今度海外へ行くときのためにもっと勉強しようと思いました。この経験は、どんなに時がたつたとしても絶対に忘れない大切な思い出になりました。



たが機内食がとても美味しかったり座席についている画面で映画を見たりと苦痛や退屈を忘れる事が出来ました。

そうして長いフライトを終えて私たちはとうとうイギリスへと到着しました。イギリスの匂いは日本とは少し違って違和感を覚えました。そこからバスに乗り私たちが通うことになる BSDC へと着きました。BSDC については現地時間で夜の 0 時くらいで、とても寒かったのを覚えています。そのような中でも派遣生がお世話になるホストファミリーの方々が快く歓迎してくださいました。私と私のペアになった鷺見先生のホストファミリーは JAN さんという方でとてもやさしい方でした。家に着いたらまず部屋に案内され家の説明を受けました。基本的には日本と違いはなく、安心からか少し話をした後で眠ってしまいました。しかし、日本とイギリスとでは 9 時間も時差があるためあまり眠ることができませんでした。

次の日から海外生活がスタートしました。出発前は自分の英語力に自信がありませんでしたが、現地の方々はゆっくりしゃべって下さり、聞き返したとしても何度でも話してくださいととても助かりました。ですが、派遣生のみんなでシルクミルミュージアムへ行った時はガイドさんが話していることが 3 割程度しかわかりませんでした。その原因はしゃべるスピードもありますが 1 番は単語力にあると考えます。そこでは専門用語がたくさん使われていて単純に意味が分からないことが多々ありました。過去にアメリカに 1 年間留学していた先生でも 6 割程度しか分らなかったようで、単語の勉強はとても大事だと再認識する機会となりました。

イギリス最終日にはロンドンを観光しました。ロンドンは 1 度訪れてみたいと思っていた場所であり、とてもワクワクしていました。しかし、天気は雨が降ったり止んだりを繰り返すスコールでした。バッキンガム宮殿前の噴水を歩いていると私の傘が壊れてしまいそこからはずっと雨に濡れ続けました。

ロンドンにあるビッグベンやロンドンアイ周辺のお土産屋さんは基本的にカードしか使えない所が多くカードを持って行かなかった私はそこで何も買えませんでした。さらに私はインターネット社会のこの世をあまく見ておりポケット Wi-Fi を持って行きませんでした。その結果、フリー Wi-Fi があるところではスマートフォンが使えなかったため、必ず誰かと行動しなくてはなりません。さらに、キングスクロス駅へ向かっている最中に派遣生の財布が掏られてしまいました。この 1 日を通して私は大きなものを学びました。一つ、デビットカードかクレジットカードを持って行く。二つ、ポケット Wi-Fi を持って行く。三つ、掏りには気を付ける。

以上のことから私は 2 つの事を学びました。1 つ目は英語が得意でなくても実際に現地に行って人と話せば意外とどうにかなるということです。私は派遣中にできるだけ積極的に英語で話しかけてみました。すると、文法がぐちゃぐちゃでも案外伝わります。2 つ目は海外に行く機会があるならば緊張しないでリラックスして過ごす。これは出発前に鷺見先生や市長がおっしゃった言葉です。確かに緊張しては学べるものも学べ

ません。これからもっと英語の学習に励み、いつかまたイギリスへ訪れたいと思います。

13 豊野高等学校

山内 舞桜

(1) ホストファミリーの紹介

私は Revecca Travis さんという女性の家に大河内和さんとホームステイしました。Revecca さんは 1 人暮らしでしたが、毎日のように友達遊びにきたり私たち以外にもアメリカや韓国などいろいろな国からホームステイの受け入れを行っていたため、人見知りでも中々自分から話しかけることができなかつた私を気に掛けて、たくさん日本のことや私のことについて質問してくれたり、ジョークを言ってくれたりしました。私も、初めはとても緊張していましたが言葉が分からないときはジェスチャーをつかったり表情で言いたいことを伝えたりして積極的にコミュニケーションをとる努力をしました。

2 日目、Revecca さんは私たちをダービーシャーの中でも特に田舎の方にある山へ連れて行ってくれました。イギリスの道路はとてもガタガタしていて、乗り物酔いをよくする私にはとてもきつい道でした。でもはっきり乗り物酔いがあることを Revecca さんに伝えると、車のスピードを落として心配してくれて、遠慮せずにきちんと伝えられることができ、良かったと思いました。山頂に着くと、スコットランドまで見ることが出来るくらい高いところで、見晴らしも良くとてもきれいな景色を見ることができました。Revecca さんはストレスがたまるとよくこの山に来て叫んでいるそうです。私もたくさん叫んで、たくさん笑って仲が深まったと思いました。

Revecca さんは料理もうまく、マザーズデーの日に作ってくれたプディングや鶏肉の料理は食べたことのない味でしたが、とても美味しかったです。

日本のお土産を渡した時もとても喜んでくれて、本当のお母さんのように優しくいつでも接してくれて Revecca さんと出会えて、本当に良かったと思います。



(2) 派遣を終えて

私はこの派遣に参加して、初対面の人とも積極的にコミュニケーションをとり、しっかりした受け答えが出来るようになったと思います。ホームステイという周りに英語しかない環境を用意してくれ英語に親しむことができ、また BSDC で出会った講師や学生の方々、平田さんや引率の先生がたにはとても感謝しています。

イギリスに着いて一日目、ホストファミリーと初めて会いました。渡英前にメールはしていましたがどんな人なのかは詳しく分からず正直緊張していました。ですが初対面とは思えないようなテンションと笑顔で出迎えてくれて、私も自然に笑顔になることができました。

貸してくれた部屋は、とても可愛らしくお姫様になった気分でした。

2日目はマザーズデーで料理をつくる前に田舎に連れて行ってもらいました。イギリスの道路はガタガタしていて乗り物酔いがひどかったのですが、正直にそのことを伝えるとスピードを緩めて心配してくれて、遠慮せずきちんと伝えて良かったと思いました。山頂に着くとスコットランドまで見渡せるくらい高いところまで来ていて、風も強く寒かったけれどとても景色が良かったです。Rebeccaさんはストレスがたまるとよくその山に行って叫ぶそうです。私もたくさん叫んでたくさん笑って仲が深まったように感じました。午後からはマザーズデーだったので Rebeccaさんのお母さんを迎えに行った後家でランチしました。サンデーローストというイギリスの伝統料理を食べました。初めて見る食べもので内心ドキドキしていましたが、かなり美味しく特にプディングと言うパンが個人的に一番でした。ただ、とても量が多く到底食べ切れなさそうでしたが、Rebeccaさんがイギリスの文化で残しても良いことを教えてくれました。日本の学校では残すのはあまり良いことではないと教わってきたので驚きました。

3日目は学校に行きました。大学では英語の授業を受けました。それぞれの班で話し合ったりゲームをしたりしました。私の班には Bibi と Si が入れ替わり出来てくれました。2人ともとてもフレンドリーでたくさん話しかけてくれました。学校が終わった後は女子数人と Si でショッピングにいきました。COSTA カフェに寄りみんなでたくさん話したことが楽しかったです。帰りはバスに乗れなかったので家まで40分かけて歩いて帰りました。疲れましたが、日本とは家の造りも街並みも全然違う道を歩くのは、新鮮で楽しかったです。

4日目はアフタヌーンティでした。私は前半テーブル準備班だったのでバディのスカールレットとテーブルの準備をしていました。スカールレットはとてもおもしろく、すぐ友達にちょっかいをかけていました。準備が終わったらナフキンをたたみました。余ったナフキンで鶴を作ってあげたら喜んでいました。折り紙を練習していて良かったと思いました。その後カップケーキを作ったのですが、バタークリームを使って日本のケーキとは全然違って驚きました。アフタヌーンティはスコーンやサンドウィッチもあり、BSDC でできた新しい友達ともたくさん話せてとても良い思い出になりました。学校が

終わった後、Rebeccaさんが友達とキックボクシングに連れて行ってくださいました。キックボクシングは初めてで緊張していましたが、一から親切に教えてくれて基礎のパンチと蹴りは出来るようになりました。

帰った後は、Rebeccaさんにお土産を渡しました。とても喜んでくれて私も嬉しくなりました。

5日目ダービーシャーの英国トヨタ自動車のバーナストーン工場に行きました。実際に車を作っている工程を見たことがなかったので、目の前で部品を取り付けているところが見られて感動しました。午後のシルクミルミュージアムはイギリスの建造物や文化財について紹介してもらい歴史について学びました。英語がとても速くあまり聞き取れなかったです。この時に私がRebeccaさんとすんなり会話出来ていたのは、彼女が私達に聞き取りやすいような簡単な単語でゆっくり話してくれていたからということが分かりました。学校終わりに私は一緒に派遣でダービーシャーに来ていた友達2人と町にショッピングに行きました。デパートは閉店時間が早く、6時にはほとんどのお店がやっていなかったで、近くのカフェに行きました。イギリスならではのデザインのお店がとても可愛いらしかったです。

6日目はカルチャーショーがありました。日本でほとんど準備を終わらせてきたので、みんなで折り紙やけん玉、紙飛行機を作って遊んでいました。Siが来てくれてけん玉が短時間でとてもうまくなっていたので驚きました。

カルチャーショー本番、しっかり準備してきた成果がみのり、成功できたと思っています。私はけん玉の担当だったのですが自信がありませんでした。でも友達が助けてくれて来てくれた人も自分が思っていたよりけん玉を気に入ってくれてとても嬉しかったです。ディナーはホストファミリーと食べました。学校が忙しく中々話す機会が無かったのでたくさんこの時に話しました。次の日家を出る前、私達はRebeccaさんにおそろいのブレスレットをプレゼントしました。泣いて喜んでくれて本当の家族のように感じました。

今回の派遣で私は今まで経験したことのない体験をすることができました。今回の経験で培った積極的なコミュニケーション力を普段の学校生活に活かし、私たちの派遣に協力してくれた方々、費用を出してくれた両親にも感謝の気持ちを忘れず日々精進したいと思います。



(1) ホストファミリーの紹介

私は Washbrook 家に滞在しました。4 人家族で 2 匹の犬を飼っています。

初日の夜、ダービーシャーの学校に到着すると父の Jim と母の Louise が迎えに来てくれていました。家に到着するまでの間は、飼っている犬の話やマンチェスターに住んでいる娘の Megan の話をしてくれ、とてもフレンドリーな方達だったので私も緊張を忘れて話すことができました。

次の日は 1 日ホストファミリーと過ごす日で、ホストマザーと一緒に買い物に出かけたり、みんなで卓球をしたり、イギリスの伝統的なご飯を食べたりと盛りだくさんな 1 日を過ごしました。夜ご飯を食べている時、日本ではあまり見かけないヨークシャーブディングやグレービングソースなどのイギリスの食べ物について紹介してくれました。

2 日目からは学校が始まり、ホストファミリーと会話をする時間は夜ご飯の時と寝る前くらいでした。それでも、学校であった出来事やたわいもない話をして過ごす時間は大切な思い出になりました。

私は、今回初めて海外を訪れました。ホームステイも初めての経験だったので、慣れないことがたくさんありました。しかし、Washbrook 家は今までにも様々な国のホームステイの受け入れをしていて、英語が聞き取れないときには言葉を言い換えてくれたり、ジェスチャーを使ってくれたりしました。そのため、心置きなく分からないことを聞くことができ、語学力の向上につながったと感じます。

改めて、ホームステイを受け入れてくれた Washbrook 家に感謝したいです。



(2) 派遣での学び

今回の派遣は、私にとって初めての海外であり、初めてのホームステイでもありました。

第一に、私がこの派遣を志望したきっかけは、中学時代の先生から海外留学の体験を

聞いたことが始まりでした。私は、大学で英語について学びたかったので、実際に海外を訪れて現地の文化を肌で感じる必要があると考えました。実際に派遣に参加してみても、聞いていた話とはかけ離れたようなこともあり、悩むことも多かったですが、自分を見つめなおす貴重な経験になったと思います。

私が今回の派遣を通して特に感じたことは、人とコミュニケーションを取ることの重要性です。当たり前ですが、イギリスでは日本語が通じないので、初日は慣れない感覚が続きました。何よりも、ホストファミリーとの会話に付いていくことができず、かなり思い悩むことが多かったです。例えば、中学の時に習う簡単な文法でも、言葉が詰まってなかなか出てこなかったり、日本の和製英語と発音が違う英単語が伝わらなかったりということが頻繁にありました。しかし、英語が理解できないなりに、会話に何とかついていく技を見つけようと派遣中に試行錯誤しました。

方法の一つとして、何を話しているかわからないときは、怖がらずに“Pardon?”と聞くことです。“Pardon?”と言えば、分かるように言い換えてくれたりするので、あまり負担に感じずに気楽に聞くことが大切だと感じました。二つ目の方法は、上記にもあるように、いろいろ考えて悩みすぎないことです。話を始める前に「この文法正しいかな?」、「話しかけたら迷惑かな?」と考え始めてしまうとせっかくの会話のチャンスを逃してしまうので、文法を間違えても、とにかく会話を繋げることが大切だと感じました。

今回の派遣で得たもう一つの経験は、考え方の変化です。実際に海外で生活することによって、日本にいる時は周りの流れに身を任せて生活している節があったと気づかされました。例えば、現地の学校に行く時、自分でバスを調べなければいけなかった上に、バス停からホームステイ先の家までの道も、似たような家が多いので、何度も迷いそうになりました。海外で道に迷うのは、本当に怖かったです。周りの人についていけばいいと考えるのではなく、自分で調べて、自分の行動に責任を持つことが大切だと感じました。

他にも、24日のロンドン観光で買い物をしていた時のことでした。私に向かって急に女性が、花を渡してきました。花を受け取るやいなやお金を要求されるという詐欺についてインターネットで見たことがあったのと、友達が「受け取ったらダメだよ」ととっさに言ってくれたおかげで詐欺にあわずに済みましたが、初めて海外に行く人やこのような知識が無い人は最悪お金を取られてしまうかもしれません。このほかにも有名キャラクターに似た着ぐるみを着て一緒に写真を撮る代わりにお金を取るという手口のものもよく見かけました。このような詐欺は、観光スポットに多発していました。日本ではあまり見ない光景なので初めのうちはかなり衝撃的でした。自分の身は自分で守るという言葉が日本にもあるけれど、海外でのこのような様子を目の当たりにして、身を守ることの大切さを痛感しました。

このようなハプニングも多くありましたが、楽しかった思い出もとても沢山できまし

た。そのなかでも、私が一番思い出に残っているのは、現地の学生との交流です。

学校が始まった初日に、同じグループで授業を受けた女の子と派遣団の子と一緒に買い物に行きました。私が普段通っている学校は終わるのが遅く、放課後に買い物に行く機会はなかなか無いので、新鮮で楽しかったです。帰りには家の方向が一緒だった現地の学生と一緒にバスで帰りました。特に、現地の学生と沢山交流できたのはカルチャーショーの日でした。その日は準備の時間が思ったよりも多くあって、一緒にけん玉や折り紙、習字といった日本の文化に触れたり、たわいもない話をしたりして過ごせたことがとても記憶に残っています。カルチャーショーが終わって、感想のスピーチを述べた後、ホストファーザーと生徒の子が私のスピーチを褒めてくれたことは忘れられない思い出になりました。

初めは、文化の違いや言語の壁に戸惑って9日間がとても長く感じましたが、後になってみるとあっという間だった気がします。私にとって、考え方や価値観がガラッと変わった貴重な経験になりました。改めて、派遣をサポートしてくれた両親や、ホームステイを温かく受け入れてくれたホストファミリー、派遣団の人などに感謝したいです。これからは、この大切な経験を生かして、目標に向かって一層努力しようと思います。



15 杜若高等学校

富岡 歩夢

(1) ホストファミリーの紹介

私は Walton 家に 1 週間ホームステイさせていただきました。現在は、お父さんの David さん、お母さんの Penny さん、猫ちゃんの Silver ちゃんですら暮らしていました。他にも家族にホストファミリーの娘であり僕たちが通った学校の先生でもある Ann さんや、時々遊びに来る私たちとほぼ同年のお孫さんの Sophie さんもいます。

初めてホストファミリーに会った時、私はとても緊張していたのですがとても暖かく

迎え入れてくださったのですぐに緊張が解けることができました。この日はすごく夜遅くに会ったにも関わらず「お腹空いてない？」とか「長旅で疲れてない？」と声をかけ僕たちのことを気にかけてくれました。また次の日はホストファミリーとの自由時間ということでホストファミリーとお孫さんと一緒に買い物に行き、楽しく買い物をしました。またスタバで少し飲んだり食べたりする時には「家族なんだからなんでも好きなものを選んでいいよ」と言ってくださり本当に優しく、楽しく過ごすことができました。お孫さんは僕たちとほぼ同い年なこともあり、気軽に話しかけてくれて移動中も楽しく仲良くできました。

また日本からのお土産を渡すと「こんな良いものを貰えるのは誕生日とクリスマス以外ないよ！」とすごく喜んでくれて嬉しかったです。その次の日からは学校が始まり朝は笑顔で送り出してくれて、学校が終わり帰ると「今日はどうだった？何したの？」と声をかけてくれて本当に家族のように接してくれました。このような日々があっという間に過ぎ、ホストファミリーと過ごす最終日「It was lovely to meet you!」や「I'll miss you.」などと声をかけ合いながらハグをしてお別れをしました。拙い英語であった僕に対して優しく接してくれて本当に嬉しかったです。私はこんな素敵なホストファミリーと出会えて本当に幸せものであり、たった1週間であったけれど今ではイギリスの家族です。またこれからもメールのやり取りを続けたいです。



(2) 絶対に忘れることのできない経験

私は海外に行ったことはありましたが、親を頼りにし自分の英語を使う機会はなく、今回が初めてのホームステイであり自分の英語を使う初めての機会でもありました。中学生の頃は英語のテストの平均点をほとんど超えることのできなかつた私ですが、高校に入りコツコツと勉強をし、テストでも良い点を取れるようになり、だんだん自信をつけ始め海外に興味を持ち今回の派遣事業に参加しました。そんな私ですが今回参加して思ったこと、感じたことは4つあります。

1 つ目は現地の人々と話すにはそれなりの語学力も必要ですがそれよりも勇気と自信を持って行動し、またコミュニケーション能力を駆使することが重要だということ

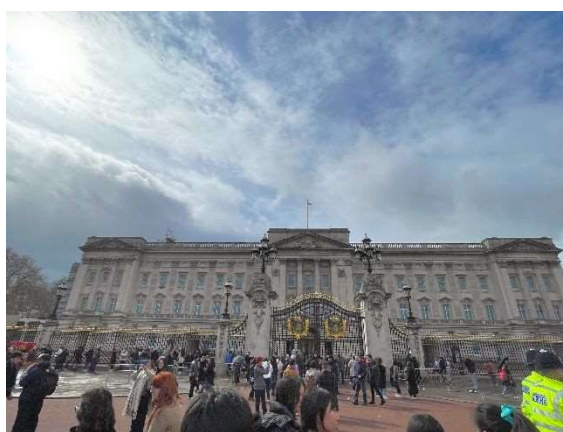
す。理由として最初の頃は自分の作る英文が不安でなかなか話すことができずあまり現地の人々と仲良くできませんでした。このままではやばい！と思った僕は知っている単語と文法をつなぎ合わせ簡単な文ではあるけれど話してみました。するとこっちに耳を傾けてくれて真摯に話に付き合い、最後にはインスタや WhatsApp などの SNS を交換しそのチャットでも話せるようになったからです。またこっちがジョークを言うとちゃんと伝わり笑ってくれたのです。このことから僕は勇気と自信そしてコミュニケーション能力を持つことで積極的に現地の人々と会話をして、仲良くすることができるということがわかりました。

2 つ目に自分はいろいろな人に支えてもらって生きているということです。理由としてまずこの派遣に参加できたのは自分の親であったり市の職員であったり、学校の先生、BSDC の人、ホストファミリーなどなどの人が僕に援助してくれたからです。また現地に行っても、ダービーシャーの人々は僕が困っていると手を差し伸べてくれたり、今回一緒に参加したメンバーで助け合ったり、まだここには書ききれないぐらいの人々によってなんとか上手くいくことができました。1 人では絶対に生きていけないということであり、他の人々に支えられて今の自分がありそしてこれからがある。これを絶対に忘れることなく今生きていることに感謝しないといけないなと思いました。

3 つ目は自分が紹介した日本のことについて興味を持ってくれて嬉しかったことです。これはダービーシャーでの生活が最後の日のカルチャーショーの時のことです。この日、僕はけん玉を紹介しました。最初のうちは珍しいもので知っている人はいなかったのがあまり興味を持ってくれませんでした。しかしある人が「これは何？」と尋ねてくれたのです。それで紹介しているうちに人が集まってきて、しばらくしてある少年に出会いました。初めは緊張していたのかなかなか話してくれませんでした。でもけん玉をやって成功し始めると少年は無邪気に楽しみだしたのです。そして他の人にも彼がまるでけん玉の先生のように紹介していました。最後に少年は「I like it!」と話し、その後インスタを繋ぎ次の日にチャットで「Thank you i enjoyed playing with you i enjoyed so much i have ordered on to try because it was very fun thank you」と言ってくれて、日本のものを英語で紹介できるかとても不安だった僕の気持ちを一瞬にして変えてくれました。これは本当に本当に嬉しかったです。

4 つ目はダービーシャーの人々は優しく温かく思いやりのある人々だなと思いました。理由としてどんな人でも僕のカタコトの英語に耳を傾けてじっくりと聞いてくれて、真摯に僕の話に付き合ってくれたからです。そして言いたいことが伝わらないと調べていいよ！と優しく言ってくれました。またあるショッピングセンターに行くとき手を差し出している男性がいて初めは怖かったですが、ハイタッチをしたいのかと思いハイタッチをすると笑顔で「Have a good day!」と声をかけてくれたからです。このことから現地の人々は思いやりがあって素敵な人々だなと思いました。

このような普段の生活では経験できないことや素晴らしい人々に巡り合うことができて本当に良かったです。また多くのことを学べたり、楽しめたりと少ない期間ではあったけれどとても充実して過ごすことができました。この経験を無駄にするのではなく、これからの学校生活や将来に活かしたいです。また地域の発展や発達、ビジネスにおいて新たなことを想起し人々の生活をより豊かにしたいと思っています。そしてできれば感謝の気持ちを込めていろいろなことに貢献していきたいなと思いました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



豊田大谷高等学校

下川 瑛斗

(1) ホストファミリーの紹介

私のホストファミリーの家は、町から離れたとても自然が豊かな所にあり、毎朝美しい庭を眺めながら紅茶をいただいたのを覚えています。

おじいさんとおばあさんの家庭で年齢は70歳ぐらいにも関わらず、ダービーシャーについて午前0時ごろに迎えに来てくれて驚きました。とても私たちに気を遣ってくださり、一週間何不自由なく過ごすことができました。ホストマザーは本物のお母さんのように、イギリスでの生活の仕方や家の設備の使い方を優しく教えてくれました。シャワーやトイレなどは日本に比べ、温度調節が難しかったり、水が流れにくかったり、環境の違いをとっても感じました。とても健康的な食事を作ってくれて、朝はグラノーラやシリアルなどの、いわゆる海外っぽい朝食を頂きました。

ホストファザーは美術の先生で、家にはアートやそれに関する本がたくさん置かれていて、家全体がお洒落でとても素敵でした。アートについての話もたくさんしてもらい、日本の浮世絵やアートの歴史についての本も読ませてもらいました。シルバーちゃんという、名前どおりの銀色の猫がいました。19歳くらいのお年寄りの猫で、基本寝ていましたが、ノロノロ歩きながら散歩をしに行く姿がとても可愛かったです。2、3日経つまでは時差ぼけやイギリスの生活様式に慣れず、精神的にきついことも多くありましたが、帰国前にはもっと長くホームステイしたかったなと思いました。



(2) イギリスでのホームステイ

私は、春休みに市の派遣制度を利用して、イギリスのダービーシャーという都市でホームステイをしました。期間は、物価高やコロナの関係で一週間と短かったですが、内容はとても濃いもので、たくさんのイギリスの文化に触れることができました。

初日はホストファミリーと終日一緒に過ごす日だったので、イギリスでの生活の仕方を教えてもらったり、ショッピングモールに連れて行ってもらったりしました。日本に比べて、不便な事が多く、シャワーやトイレなど水回りは水が流れにくかったり温度調節が難しかったり、土地が広く基本的に車で移動するため、運転が荒かったり、道路があまり舗装されていなかったりして、車酔いしてしまう事が多かったです。ホストファミリーに日本のお土産を渡した時、クリスマスみたいだ、と感謝されたのがとても印象に残っています。桜の柄が描かれたグラスを渡し、とても喜んでもらえました。

2日目はBSDCで英語の授業を受けました。日本の学校の授業ではあまり習わない、動詞がもつ意味合い強さや熟語について教えてもらいました。昼食も学内の学食で頂きました。サンドイッチとオレンジジュースを頂いたのですが、やっぱり日本のご飯の方が美味しいと感じました。家に帰ると疲れ果てすぐに寝てしまい、夜ご飯を食べることができませんでした。

3日目はイギリスの料理体験をしてアフタヌーンティーを頂きました。料理体験では、アフタヌーンティー用のスコーンを作ったり、カクテルの作り方を学んだりしました。アフタヌーンティーを食べる時には、紅茶とミルクの混ぜ方やフォークやナイフなど、様々なマナーがあり難しかったです。イギリスの食べ物はとても甘いものが多いので食べ切るのが大変でした。時差ぼけやイギリスの食事にも慣れて、ある程度リラックスして生活ができるようになりました。

4日目はイギリスのトヨタの工場と、ダービーシルクミルミュージアムという所に行きました。工場では、派遣生徒が用意した、未来の車についてのプレゼンをし、社員の方と会話をして、自分の価値観を広げる事ができました。社員食堂で食べたポテトがと

でもおいしかったです。シルクミルミュージアムでは職員の方が展示品について説明してくれましたが、英語が難し過ぎてほとんど理解する事ができませんでした。

5日目は大学で日本の文化を紹介する、カルチャーショーを行いました。朝から準備を始め、味噌汁やおしるこ、けん玉やこま、あやとりや折り紙といった沢山の日本文化を紹介しました。準備にたくさんの時間があつたため、様々な種類の折り紙を作り配りました。それがホストファミリーや大学の生徒の方にとっても喜んで頂けたので嬉しかったです。私は折り紙の紹介だった為、折り方を英語で説明したのですがとても難しく、なかなか伝わらない事も多かったです。ですが、簡単な英語を使ったり、手や体を使ったりして、なんとか伝える事ができた時、他の言語を使って人とコミュニケーションを取る楽しさを強く感じました。カルチャーショーは縁日のようなイメージで行った為、お祭りみたいで嬉しかったです。おしるこ味噌汁を飲むことができ、久しぶりの日本食に安心しました。

6日目はホストファミリーの家を離れてロンドンに行きました。ロンドンでは地下鉄に乗って、バッキンガム宮殿やビッグベンに行きました。ロンドンの地下鉄は扉が閉まるのが早く、人が乗れていなくても閉まるので怖かったです。イギリスは雨が多いのですが、その日はスコールで特に天候が悪かったです。夜は空港近くのホテルに泊まって友人と夜中まで、楽しかった事や辛かったことなどを共有し日本人同士の絆を深めました。

最終日は朝早く起き飛行機に乗って帰りました。初めの頃は大変な事も多く早く帰りたいなと思っていましたが、帰る頃にはもっと長く留学したい気持ちがありました。飛行機は、イギリスから日本まで、乗り換え含めて16時間ほどの長い時間でしたが、慣れない海外での生活で、とても疲れていた為、ほとんどの時間寝る事ができて、快適に過ごす事ができました。

初めてのホームステイで緊張する事も多かったです。ホストファミリーや様々な方のおかげで、すぐに馴染む事ができました。イギリスでの生活は私の異文化理解を深め、コミュニケーション能力や協調性を向上させてくれた忘れられない思い出となりました。大学生になったら、沢山の国にもっと長く留学してみたいです。



令和5年3月18日から令和5年3月26日にかけて、英国のダービーシャー県にあるバートンアンドサウスダービーシャーカレッジ（BSDC）を訪問しました。

名古屋駅に集合してから現地のホストファミリーと合流するまで24時間以上の長旅となり、合流場所に到着したころの現地時間はすでに深夜であったにもかかわらず、これから始まる生活に期待を膨らませた生徒たちの表情には疲労の色はあまり感じられませんでした。こうして無事ホストファミリーと合流した私たちは、それぞれの家へと向かい、初日を終わりました。

2日目は日曜日であったため、生徒たちはそれぞれのホストファミリーとともに英国の休日を満喫しました。また、この日は英国における「母の日」であったため、ホストファミリーやその親戚たちと集まって現地の伝統料理を食べながら祝日を過ごした生徒もいたようでした。私は近所の教会に行き、同じく母の日を祝うためのイベントに参加しました。

3日目からはいよいよ BSDC での生活が始まりました。BSDC での初日は現地の先生による英語の授業でした。授業で使用するスライドからプリント、先生の話す言葉の全てはもちろん英語です。しかし生徒たちは堂々と、臆することなく自分たちの意見を発信し、日本ではなかなか経験することのできない英語漬けの授業を楽しみました。授業には数人の現地学生が「バディ」として入れ替わりで授業に参加し、生徒たちのサポートをしてくれました。生徒たちはバディたちと少しでも仲良くなろうと、積極的に英語で話しかけ、SNS を交換し、休み時間や放課後も常にバディたちと過ごしました。このバディたちは今回の滞在において生徒たちの最も親しい友となり、常に生徒のモチベーションを引き出してくれた、欠かすことのできない存在でした。

4日目には英国の伝統料理作り体験、いわゆる調理実習体験を行いました。現地の学生たちから英国の伝統料理の作り方やテーブルマナーを学びました。テーブルマナー講座では、学ぶ側であるはずの生徒が、ナプキンを使って折り鶴の折り方を現地のスタッフの方々に伝授し、その出来栄にスタッフの方々が大喜びするなど、思わぬところで小さな異文化交流が行われていました。午後は自分たちの作った料理を使ったアフタヌーンティーを楽しみました。英国文化を楽しんだ後は、異文化交流として、生徒たちによる茶道の実践を行いました。

5日目には現地のトヨタ自動車の工場および地元の美術館へ見学に行きました。トヨタ自動車の工場では自動車の製造過程をかなりの至近距離で見学させていただきました。また、現地で働く日本人従業員の方のお話を聞きました。実際に現地で働く方による「日本製品を海外で製造・販売することの意味や重要性」についてのお話には大変な説得力や新たな気づきがあり、生徒たちも真剣に耳を傾け、多くの質問を投げかけていました。美術館見学では、ツアーガイドの方による専門用語を含んだ英語での難しい説明にも真剣に耳を傾けながら、海外ならではの美術作品を数多く鑑賞させていただきました。

した。

6日目にはカルチャーショーを行いました。BSDCの職員や学生、ホストファミリーなどをお招きし、出国前から準備を進めてきたことの集大成を披露しました。けん玉や折り紙、習字に着物の着付け体験など、懸命な準備の甲斐もありどれも大反響でした。カルチャーショーを通して、生徒たちは現地で出会った全ての方々に感謝を伝えました。この日の終わりはいよいよ BSDC とのお別れです。生徒たちは1人ずつ、英語で現地の方々への感謝を述べました。およそ1週間という短い期間でしたが、ひとりひとりの表情には自信が満ち溢れ、初日とは別人のような、堂々とした英語の挨拶を披露してくれました。

7日目はロンドンへ移動し、市内散策を楽しみました。あいにく天候には恵まれず、雨が降ることもありましたが、テレビや教科書で目にしたことのある建造物の数々に生徒たちは大興奮でした。ここでも電車の乗り換えなど、日本とは異なる文化に戸惑うこともありましたが、全員で力を合わせて笑顔で最終日を締めくくることが出来ました。

引率教諭 杜若高等学校

田中 佑委

(1) BSDC での様子

登校初日に英語の授業を生徒と一緒に受けました。自分の好きなもの、嫌いなものについての多様な表現や、より具体的に表す形容詞や副詞を学びました。生徒はグループ内で協力しながら取り組んでいました。BSDCの先生の授業はとてわかりやすく、自身の授業にも大変参考になる内容でした。また、授業には BSDC のバディも入り、サポートをしてくれました。生徒は同年代のバディとのやりとりを通して生の英語に触れ、積極的にコミュニケーションを取る様子が印象的でした。

滞在3日目は BSDC の調理科の学生とアフタヌーンティーを作りました。調理科の学生たちが生徒に親身になってサンドイッチの作り方、テーブルセッティング、ナプキン折りの仕方を教えてくれました。特に、ナプキン折りでは、BSDCの学生から一通り教わった後、ナプキンを使って日本の折り紙でお馴染みの鶴や手裏剣を実演して現地の学生と交流を深めていました。現地の学生たちも折り紙に興味を持ってくれ、最終的には鶴の折り方を知らなかった派遣団員に BSDC の学生が折り方を教えるまでに上達していました。午後は学生のアフタヌーンティーについてのプレゼンを聴いた後、派遣生徒が茶道を実演しました。担当生徒はこの日の為に事前に茶道部へお点前の仕方を習ったり、英語の説明を考えてきたりとしっかりと準備をしていました。現地の学生たちに点てたお茶を振る舞い、BSDCの学生にも好評だったように思います。

(2) 英国トヨタ自動車訪問、Silk Mill Museum

4日目は、午前には英国のトヨタ自動車を訪問しました。英国トヨタ自動車工場の歴史を学び、実際に工場見学をさせていただき、普段生徒たちにも身近であろうトヨタ自動車が世界でも認知されていることを肌で感じている様子でした。工場見学では、現地ス

スタッフは英語で、駐在社員の方は日本語で案内をしてくださいました。駐在社員の方は工場案内だけでなく、イギリスのあいさつや考え方、天候などを説明の合間に挟んでくださり、とても楽しく為になる内容でした。訪問の最後には駐在社員の方から力強いメッセージを受け、生徒一人ひとりが自身の将来を考える一助となったと思います。

午後は、Derby Silk Mill Museum までタクシーに分散乗車して移動しました。ミュージアムのコレクションをスタッフから丁寧な説明を受けました。説明内容が専門的なこともあり、生徒たちは聞き取るのに悪戦苦闘している様子でしたが、真剣に説明を聞いていました。

(3) ロンドン観光

5日目はダービーシャーから観光バスでロンドンまで移動して、市内を散策しました。BSDC のジョンとケイティの案内で、各名所を巡りました。市内の移動は地下鉄でしたが、20人弱が一斉に移動することが難しかった場面があり、今後の課題だと感じました。

(4) ホームステイ

私は Janine 宅へホームステイをしました。ホストファミリーが常に気遣って下さったおかげで、快適に過ごすことができました。Janine 宅から BSDC までは近かったので、毎日徒歩で BSDC まで行っていました。BSDC までの道順は前日に一緒に歩いて案内してくれていたもので、道に迷うことなくたどり着くことができました。毎晩おいしい夕食を作ってくれ、一緒におしゃべりをしながら楽しい一時を過ごすことができ、本当に良い思い出ができました。

(5) さいごに

この度、英国派遣の引率という貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。また、BSDC のアンさんはじめ、多くの先生方、スタッフの方のご尽力のおかげで無事にプログラムを遂行することができました。本当にありがとうございました。また、派遣団の皆さん、今回の体験を活かして今後ますますのご活躍を期待しています。

英語感想文

Reflections on experiences in Derbyshire, written by
each student in English

Mayu Naito

The thing that impressed me is the culture show. A lot of people enjoyed it, and I could see a lot of smiles. We had prepared it for about three months before when we went to the UK. We talked about what we show and how we make time schedule at the studying workshop or SNS group. And then, we had some jobs themselves, like remembering how to make origami. I practiced dressing a kimono to someone for many times because I handled the kimono booth with my friend. At the culture show, I dressed a kimono to my host family, and they were pleased so much. I was so happy, and I thought my hard work paid off. The other booths looked successful because a lot of people enjoyed origami, ayatori (Cat's cradle in English) and calligraphy.

The culture show was a good memory so that I will never forget it. Through it, I thought that Japanese traditional culture is fun for everyone, and I hope the people who will go to the UK next year will introduce Japanese interesting culture more.

Chisa Suzuki

I enjoyed having afternoon tea the most. I have been interested in British culture, so I was happy to have such an experience.

First, we did table setting. It was difficult to fold napkins. But it was fun because folding napkins resembles to making origami.

It was also fun that BSDC students and I made planes and shuriken. We decorated cakes and made sandwiches after that. I'm not good at cooking but I was so excited. I enjoyed talking with food major students while having sandwiches, scones, and cakes. I put cream and jam on the scone. It was so sweet but delicious. I really enjoyed it!

Isaki Ota

My best memory

This was my first time abroad. I had a great time in England and met many wonderful people.

My best memory was to spend the time with my host family. When I first met them, I was very nervous with my ability to have a good conversation. However, my host mother spoke slowly so that I could understand her, and when I didn't understand her, she

spoke in plain English. My host father also made me laugh with his jokes and it was fun to have conversation with them. They were happy to eat when I introduced them to Japanese sweets and when I made Japanese food.

I have made many unforgettable memories. I want to study English more from now on and go to England again! I would like to use this experience to take on various challenges. Thank you to everyone who supported us.

Reima Konishi

MY WALLET WAS STOLEN?!

This really happened to me. My wallet was stolen when I rode a crowded subway train. This was a really sad thing, but this thing impressed me and I feel it was a very good experience. Because that experience is maybe never going to meet again, and I remember that Japan's public safety is really good. Well, I will keep an eye on my wallet anytime anywhere. Because I know abroad is not safer than in Japan. So, I will always be cautious. But it happens to me. I write again "This thing is very good experience."

Nao Kawahara

A fun week

Thank you to everyone. I had a great time in U.K. It has been my dream to go to the UK since I was in elementary school. So, I was very happy when I heard I could go to the UK. I was able to do many things that I could not experience in Japan. I wanted to use this experience for my future.

My host family was very kind and made me feel at home. All of my host mother's home-cooked meals were very delicious! Also, the host father's jokes were very funny! I love it so so so much!!

Our buddies always helped us, and we enjoyed talking with each other in English. I would thank all people who supported us. I will never forget them and memories. I want to visit the UK again.

Toya Sakumoto

Most memorable experiences

It's about what I enjoyed the most. It was my visit to TMUK. I started researching companies about two months ago because I wanted to find a job. Toyota was one of them, so I did a lot of research. But when I was researching, I thought that you can't get a feel for a company just from what is written on paper or on the web. So, by going to TMUK this time, I was able to see the atmosphere of the people working there, the movement of the machines in the factory and many other things that you can't get on paper. In addition, by talking to people working on site, I was able to ask them about what kind of company Toyota Motor Corporation is and what kind of work they are doing, and many other things that you can't find out by researching.

I also talked a lot with other Japanese people working there who were on secondment. Some were working in the accounting department of Toyota Motor Corporation, others were managing the facilities at the plant, and so on. These people told me about the difficulties of working abroad. I was able to learn about the differences in values between Japan and the UK, such as the difficulties of communicating in English, which is a different language, and the difficulties of understanding different cultures. It was a really good experience.

Yushin Sekihara

I love the UK.

I especially like British cars and culture. When I actually went to the UK, I was surprised at the cultural differences and the types of cars on the road in the UK. The British people are particularly kind, and my host family really took care of me. Even though my host mother was tired from work, she cooked dinner and asked me about what had happened today, which made the homestay very fulfilling. My host mother likes to drink, so I am planning to send her some sake as a thank you.

Yuka Ito

My best memory is the time I had afternoon tea. At first, I thought I was just going to experience the tradition of having afternoon tea. But I was surprised to find out

that I was also going to learn how to make sandwiches, scones, and cakes. Additionally, they taught me how to set the table and fold the napkins, which made me very happy because I didn't think I could do it on my own.

During the meal, college students talked to me about etiquette, how to eat, and life at the college in English. Whenever I asked questions in English, they answered me in English, and we had a lot of fun conversations. Afternoon tea was the best thing of British culture.

Sora Sugiura

Experiences of staying in the UK

I learned a lot of things what we cannot learn if we just stay in Japan especially little-known culture and facts for example, commonly used words by people and other commonly eaten foods such as fish and chips in the UK.

Through this program, I was able to learn what it is really like in England, and I was able to reconfirm once again how wonderful Japan is. I think that this experience will help me not only for using English in the future, but for many other things.

Nagomi Okochi

The best memory

I think the best memory is the culture show. The show held Origami booth, Kimono booth, Calligraphy booth and Kendama booth. I was in charge of Calligraphy booth. Many guests came to my booth, and they were interested in Kanji. They imitated my movement. It looked so difficult for them. I can't forget my host Mather's smile when I presented Kanji of her name to her. I told her its meaning. She looked so happy. Next, I ate dinner with her in a college. We talked many things for a long time. We spent a happy time.

Manami Ishii

Lovely day!!

The most impressive day is the first day. This day was very busy day because we went to many places.

At first, we went to BSDC to know how we go there, and we went to supermarket. Then we went to Andy's house which is my host family's friend's house. We enjoyed playing UNO and table tennis with Andy and his wife. Moreover, they have a dog which name is Molly. He is really cute♥

Lastly, we went to host father's mother's house because this day was Mother's Day. So, we enjoyed talking and cream tea.

I was so nervous, but I was glad to meet many people. It was really wonderful experience!

Yugo Ueda

A Wonderful Experience

This experience was for the first time in my life. So, I was so worried about my English. Before we leave from Japan, I was worried about my communication skills in different culture too. But everyone including my host family was listening to my English carefully. I was able to talk with peace of mind.

Through this experience, I felt the fun of learning abroad. So, when I become a college student, I want to study abroad to improve my skills in various countries.

Mao Yamauchi

I have learnt a lot from the experience in the UK. Two of these are particularly memorable.

The first was the interaction with my host family. Ms,Revecca who hosted me was very kind, and listened to what I want say until I stop speaking and spoke English slowly so that I could understand her easily.

The second is the afternoon tea. The table I was at had two BSDC students, and they were both very friendly and happy to talk to me a lot. There were a few times when I didn't understand their English and I was at a loss for words, but I was relieved that they

understood me when I spoke with using facial expression and gestures.

I had a wonderful experience in the UK which is something I had never experienced before. I 'd like to make the most of this experience in my future school life, and I'd like to thank the people at BSDC and my host family for accepting me.

Wakana Matsumoto

This was my first studying abroad and my first homestay. There were many things that I didn't understand, and there were days when I wanted to run away because it was hard, but I think that what I gained was great experience because of the hardships.

It was a fulfilling 9 days, and it was an opportunity to change my way of thinking. I want to cherish this experience and study English harder. I am also very grateful to my host family for accepting me.



Ayumu Tomioka

It was very very very fun!! And I want to go again! I was very anxious and nervous when the first day in the UK, but thanks to many wonderful teachers, students and host families, I had a lot of fun and learned a lot. They listened carefully to my poor English. And I was happy when I could make my English understood.

Anyway, I think that the most memorable of these was the culture show. Because, I introduced Kendama for a boy who was pleased and bought Kendama after then. Thereafter we could connect with Instagram. I would like to keep these connections. I will never forget this experience. Thank you very much!



Akito Shimokawa

What impressed me the most about studying abroad in the UK was the culture show. We held that on the final day of the time in BSDC college. We started preparing it in the morning. We introduced Japanese culture. For example, Origami Ayatori Kendama Koma Misosiru and Oshiruko. I was nervous if I do well at first. It's because we had to introduce it in English. It seemed that it was fun for BSDC college students. It was difficult for me, but it was a valuable experience.

I was able to practice my English skills during the presentations at the culture show. It was successful thanks to my companions.



Wonderful Trip to the UK

We stayed in Derbyshire, the UK for about a week to interact with the students in BSDC. Through this project, our students got a lot of experience of accepting different cultures and adapting themselves to what they had never seen and touched: quite different lifestyles.

On the first day in BSDC, we took lessons on English and English cultures. The way the teacher teaches English to the students was so interesting and attracting that they enjoy expressing their ideas in English. Some students in BSDC took turns joining our lessons and help our students. They are almost the same age as our students, so it didn't take them long to make friends with each other.

On the second day, our students learnt how to cook British cuisine. Also, they learned how they should behave when they are eating. In the morning, they cooked some traditional cuisine with the students in BSDC. In the afternoon, we enjoyed afternoon tea over meal students cooked. Then our students demonstrated Japanese tea ceremony and let some friends in BSDC try a cup of tea.

On Day 3, we visited a factory of TOYOTA and a local art museum. Though we usually see a lot of cars made by Toyota running around our city, this was the first time to see how the cars are fabricated in person. This must have had our students feel we are proud of our city and the cars sent to the world from our city. We also realized how important producing products and selling them to customers in foreign countries in order to keep connecting with them is.

The next day, we held a "culture show" to demonstrate some Japanese cultures and let our guests try some of them with our best gratitude to this short trip and their warm hospitality. In the end, our students gave a short speech looking back this stay in English. Surrounded by many guests, including students and teachers in BSDC and their host families, they were very confident, which looked quite different from what they were in the first day.

On the final day of staying in the UK, we went sightseeing in London. Students got excited to see traditional buildings they had seen only in textbooks.

After this short but wonderful stay in the UK, all of us safely got back to Japan.

It took more than 24 hours to arrive at Burton on Trent from Toyota City. When we finally reached BSDC, all of us were exhausted because of the long flight, but they

were very excited to think about the UK life for a week. We had wonderful days in the UK thanks to all of the BSDC teachers and staffs.

(1) BSDC

We had an English lesson on the first day. Students were divided into some groups, and they cooperated with each other to express what they like or what they do not like to use adjective or adverb. The lesson was some of help to me and I want to try some of them in Japan. During the lesson, many international students of BSDC came to our lessons and they helped the students to study. They also communicated with the students so much and then they sometimes had lunch at BSDC.

On the second day, we experienced British Cookery and Afternoon Tea with the students of catering and hospitality at BSDC. In the morning, some students cooked some food for afternoon tea, and others learned the way of table setting and paper napkins. First, BSDC students showed our students how to fold napkins. After that, Japanese students taught the origami “tsuru” or “shuriken.” It was a great time to know the tradition of each country.

In the afternoon, we had and learned Afternoon Tea from BSDC students. And then, some of our students showed and explain the “sado” (tea ceremony). They practiced a lot at their high school and prepared some tools for sado from Japan. They could present well the Japanese culture to the UK students.

(2) The cultural Exhibition

We did “the culture show” on the last day. This time, we decided to do some Japanese traditional play (Origami, Kendama), events (Japanese Samurai drama and wearing kimono) etc. First of all, some of the students could not make origami, so they practiced very hard to show, and they practiced wearing kimono and calligraphy as well. It was a good time to show our culture and the guests would enjoy the activities. I think this experience would a good opportunity not only for the UK people but also Japanese people to think about Japan.

Through this delegation, students could learn a lot of things, although it would have many difficulties for the students. They could speak English a lot with the UK people, and I hope they had a lot of confidence from this program. And I really appreciate all of the BSDC teachers and staffs and my host family for this program. Thank you very much for all of your kindness and efforts.

ダービーシャー高校生派遣事業資料

ダービーシャー高校生派遣事業

回	年 度	学 生		計
		男	女	
1	平成 26 年 (2014 年) 度	4	12	16
2	平成 27 年 (2015 年) 度	3	13	16
3	平成 28 年 (2016 年) 度	4	12	16
4	平成 29 年 (2017 年) 度	5	10	15
5	平成 30 年 (2018 年) 度	2	13	15
(6)	平成 31 年 (2019 年) 度	(8)	(8)	(16)
		新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、派遣中止 (事前研修等の準備は実施したが、出発前に派遣中止を判断)		
-	令和 2 年 (2020 年) 度	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、派遣中止		
-	令和 3 年 (2021 年) 度	4	11	15
		派遣代替事業として BSDC の学生を含む英国在住者とのオンライン交流事業を実施		
6	令和 4 年 (2022 年) 度	6	10	16
計 (平成 31 年度含む)		36	89	125



Golden Days Abroad in Derbyshire
～ 姉妹都市ダービーシャーを訪ねて ～ 2023

第6回ダービーシャー高校生派遣帰国報告書
編集・発行 豊田市 生涯活躍部 国際まちづくり推進課
〒471-8501 豊田市西町3-60 TEL0565-34-6963
e-mail : kokusai@city.toyota.aichi.jp